



Web Fairy Paradis

第56号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第49回 WFP フェアリー作品展(再掲)
- ・ 第50回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第63回 推理将棋出題

結果発表

- ・ 第48回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第3回 フェアリー短編コンクール
- ・ Fairy of the Forest #34

読み物

- ・ おばか再び解答編(神無太郎)
- ・ Fairy TopIX2012 お気に入り投票要項



2013/2



全国でゆるキャラブームが起きている。昨年度のゆるキャラグランプリでは同じ県内の今治市のゆるキャラ「バリイさん」が投票トップとなった。その後全国区の人気者となり茶のCMにまで出演している。

私の住む新居浜市にも遅ればせながらゆるキャラが誕生した。(上図参照) 新居浜市で有名といえば「新居浜太鼓祭り」しかないので設定はこんなものだろう。まあなんとなく愛嬌がありそうでかわいくもあります。ただ「まちゆり」と呼んでください〜と告知していますが、新居浜の部分が全く抜けてしまうが大丈夫か？まだ着ぐるみ姿を見たことないのでそれを見るのが楽しみです。

さて私の従事する建築業界では2～3月が繁忙期となります。年度末にむけて大きな仕事から小さな仕事までバタバタするのは毎年恒例の事。そんな子の時期によくやってしまうのが締切忘れ。今月もFairy of the Forestの解図を全く忘れておりました。作図問題もするのを楽しみにしていたのに全くもって残念無念。酒井氏よりWFP原稿の「解答編」が届いて思い出す始末。あ〜これも年をとったせいかな〜

忘れないうちに告知しておきましょう。Fairy TopIX 2012のお気に入り投票が始まります。ネット上で発表されたフェアリー作品、推理将棋などの中からお気に入り投票によって1位～3位まで表彰(とはいえっても名誉だけです)します。皆さん投票よろしくお願ひいたします。候補作一覧は2月末を目標に作成予定です。全作目を通さなくても結構です、お気に入り作品をあるだけ投票くださいませ。

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第56号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

イラスト・素材提供：幻想素材サイト First Moon

<http://www.first-moon.com/>

*表紙のイラストを使用させて頂いております。

第49回WFP作品展(再掲)

第50回WFP作品展出題 担当：神無七郎

$$\frac{1}{4} + \frac{2}{3} = \frac{3}{7} \dots ?$$

最近私もミスが多く、WFP 作品展でもいろいろと失敗をしているので、今回は「間違い」の話したいと思います。ただ普通の間違いでは面白くないので、役に立つ「間違い」の話です。

さて冒頭に挙げた数式を見てください。何か変ですね。本来なら $11/12$ になるべき右辺が $3/7$ になっています。これは分数を習いたての小学生がするような間違いで、分母同士、分子同士を足した結果を右辺に書いているのです。

この式自体は間違いですが、実は分母同士、分子同士を足して作った分数には「Mediant (中間数)」という立派な名前が付いています。こうして作られた分数は、元の2つの分数の間の分数になるからです。つまり $a/c < b/d$ で分母の符号が同じなら $a/c < (a+b)/(c+d) < b/d$ が常に成り立つというわけです。

この「中間数」には様々な用途があります。例えば $0/1$ と $1/0$ を元に隣り合う数同士の中間数を作る操作を無限に繰り返すと、すべての正の既約分数が生成できます。「既約」、つまり約分の操作が要らないのです。更に、この中間数の生成の様子をグラフで表したものは「Stern-Brocot tree」と呼ばれ、数々の興味深い性質を持っています。

この一つの応用として、二分法で中間数を使うことが考えられます。例えば連続な関数 $f(x)$ について $f(x)=0$ の解を求めたいとします。普通の二分法で解を求めると解は調査範囲の $1/2^n$ 刻みの値になってしまい、有理数解がある場合でも誤差が出る場合があります。しかし、普通の二分法で使う「真ん中の値」の代わりに「中間数」を使えば、計算量は増えますが、有理数解を誤差なく求めることができます。

「間違い」は使い方により役に立つ概念に変わります。詰将棋は将棋の実戦で「間違い」の手を「正解」に変えます。フェアリーは普通の詰将棋で「間違い」の手を「正解」に変えます。

「間違い」が「正解」となる世界を作ったらどうなるか…これは詰将棋を作るときにも重要な視点です。

さて、今回の WFP 作品展は第 49 回出題の再掲と第 50 回の新規出題です。今回はたくぼんさんから強欲協力詰の煙詰・準煙詰が計 5 題送られてきました。分割で出題することも考えたのですが、筆者が解いてみたところ 5 題合わせて 1 時間ほどで済んだので、一気に出題することにしました。また、変寝夢さんからは「マキシ」を 2 題送っていただきました。初めての方は補足説明や例題をよくお読みください。また、久々に担当者の作品を出題します。これは第 48 回作品展の結果稿が参考になると思います。

〔第 49 回作品展各題への補足説明〕(再掲)

49-1~6 は神無太郎さんのミニ個展。前半が「安東西」シリーズ、後半が「側面」シリーズです。前回・前々回の作品や、裸玉の調査結果 (<http://homepage1.nifty.com/kamina/taro/hn/index1.htm>) の「安 X (-)」「X 面 (-)」の項から基本的な手筋を吸収し、解図に臨みましょう。難しい問題もありますが頑張ってください。

49-7 は変寝夢さんのフェアリー駒シリーズ。今回は Lion (Li) の登場です。Lion はグラスホッパーに似ていますが、跳び越した後任意の地点に着地できる所がグラスホッパーと異なります。本局には Lion だけでなく騎 (ナイト) も使われており、両者のコンビネーションが鍵になります。Lion の表記は「獅」としたいところですが、中将棋の獅子と紛らわしいので Li としています。(※前号の当初、誤った図を掲載していました。お詫びして訂正します。)

49-8 は、たくぼんさんの歩を詰める協力詰。歩が成れることを忘れないように！(つまり後半からは「と金」を詰める協力詰になります。)

49-9,10 は橘さんのキルケ作品 2 題。それぞれ元ネタとなる作品があるので、よろしければ解図後に発想の元となった作品を当ててみてください。比較的近年の作品です。

49-11,12 は上谷さんの性能変化系複合マドラシ作品。このルールが提案された当初は、筆者も単なる組合セルールと勘違いしていましたが、マドラシを性能変化ルールと組み合わせると、単なる組合せ以上のことが起こります。また、従来の「マドラシ」の説明も修正しなければいけません。

〔従来のマドラシルールの説明〕

同種の敵駒が互いの利きに入ると、利きがなくなる。

〔本来のマドラシールの説明〕

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。

今までは将棋駒の利きの対称性により、一方が利いている場合は必ず他方からの利きもあったため、「互いの」という表現を使っていました。しかし、性能変化ルールと組み合わせると、必ず相互に利きを打ち消し合う保証はありません。同様の現象は性能変化ルールばかりではなく、フェアリー駒を使った場合などにも起こるので、今後は、必ずしも相互的でない石化を想定した表現に修正します。なお、玉を対象外とするものを単に「マドラシ」、玉も対象とするものを「Kマドラシ」と呼ぶのは従来通りです。

説明だけでは分かりにくいと思いますので、実際の作品をご覧くださいませ。

〔対面マドラシ協力自玉詰の例〕

神無右京作

(Online Fairy Mate、2000年9月18日)

対面Kマドラシばか自殺詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				王					四
									五
									六
									七
									八
							王		九

持駒 飛

49 飛 47 桂 同飛 55 玉 67 桂 58 桂 まで 6手 (詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				王					四
									五
									六
					桂	飛			七
						王			八
							王		九

持駒 なし

最終手が対面マドラシならではの手。一瞬王手放置に見えますが、58 桂は対面の効果により玉の利きになり、67 桂はその利きの影響を受けて利きが消えるので、確かに王手の解消になっています。なお、発表時のルールは「Kマドラシ」になっていますが、この作品に限っては単なる「マドラシ」でも同じです。

また、このルールでは利きの変化は「対面」→「マドラシ」の順に起こること（「対面」「マドラシ」の語順に意味がある）ことにも留意してください。以下の例題をご覧ください。

〔対面Kマドラシ協力詰の例題〕 神無七郎作

対面Kマドラシ協力詰 1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
							桂	王	七
							王		八
									九

持駒 桂

18 桂 まで 1手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
							桂	王	七
							王	桂	八
									九

持駒 なし

初形で玉同士が石化しています。このため 18 桂も利きがなく、王手ではない…ということはありません。先に対面の効果が適用され、18 桂は玉の利きになり、確かに王手になります。また、17 玉が桂の利きになるので 28 王は相手玉の睨みから解放され、本来の利きに戻ります。逆に 17 玉は 28 王に睨まれて石化。せつかく桂

になったのに、29 玉と逃げることはできません。また、18 桂は桂と復活した王による両王手なので 26 桂とする受けも成立しません。もし攻方 27 桂がなければ、受方は 27 桂と打つことで両王手を逃れることができます。簡素な例題ですが、性能変化を伴うマドラシの油断ならない性質は、この図からも見て取れます。

【第 50 回作品展各題への補足説明】

50-1 と 50-2 は変寝夢さんの「マキシ」条件の付いた駒詰です。

「マキシ」は受方が「最大移動距離」の応手を指すルールです。ここで言う距離は将棋盤を 9×9 の正方格子とみなし、通常の平面幾何的な距離で計算します。例えば、19 飛が 11 に動いた場合の距離は 8、99 角が 11 に動いた場合の距離は $8\sqrt{2}$ となります。また、持駒を打つ手は距離 1 と定義します。

【マキシの例題】左真樹氏作

(詰将棋パラダイス、1980 年 5 月)

マキシ詰 9 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王
									角

持駒 銀2 桂2

23 桂 同飛 21 角成 同飛 12 銀 同飛

22 銀 同角 23 桂 まで 9 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王
									飛
									角
									桂

持駒 なし

例えば初手 23 桂に対する応手は 12 玉・22 玉・同飛の 3 つですが、12 玉は距離 1、22 玉は距離 $\sqrt{2}$ 、同飛は距離 2 なので、最大距離の「同飛」が選ばれます。以降も常に最大距離の手を受方が指していることを確認してください。

今回の出題は飛や馬という移動距離の大きな駒を詰める作品ですので「マキシ」の条件に一層の注意が必要です。また両作は受方持駒が「なし」となっていますが、合駒の出ない形なので、実際は駒があっても変わりません。

50-3~7 は、たくぼんさんによる強欲協力詰の煙詰・準煙詰です。作品の並びは手数順ではなく、f m で検討した時の解析局面数順です。ただし、1 題だけ準煙詰があるので、これだけ並び順を変えています。

50-8 は久々に担当からの出題。少し難しいかもしれませんが、第 48 回の結果稿を読んでから臨めば、かなり筋を絞り易いと思います。

解答要項

解答締切：

第 49 回：2013 年 3 月 15 日（金）

第 50 回：2013 年 4 月 15 日（月）

宛先：janacek789@ybb.ne.jp（メールの件名に「解答」の語句を入れてください。）

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。（原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。）宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。f m 検討済みなら.fmo 形式のファイル添付を推奨します。

ルール説明

【安東西】

味方の駒が横にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる（行き所ない駒の概念なし）。

【協力白玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【側面】

敵駒が横にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる。（行き所ない駒の概念はなし）

【協力白玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメ

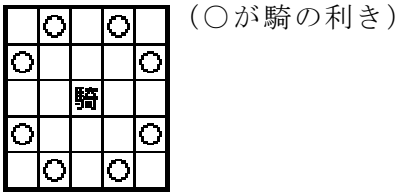
イト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【ナイト】（騎）

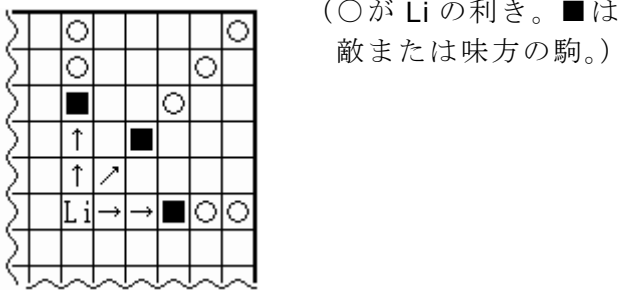
ナイトはチェスの駒。八方桂。



【Lion】（Li）

フェアリーチェスの Lion。

クイーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



【歩王】

駒詰の一種。玉が歩の性能になる。歩と同様成ることもでき、「と金」の性能になる。

【キルケ】

駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される

【マドラシ】

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。玉を対象外とするものを単に「マドラシ」、玉も対象とするものを「Kマドラシ」と呼ぶ。

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【背面】

敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入れ替わる。

【マキシ】

受方は最長距離の着手を選ぶ。

【成禁】

手順中に駒を成る手があってはならない。「詰み」や「王手」の概念は通常通り。

【飛王】

駒詰の一種。玉が飛の性能になる。

【馬王】

駒詰の一種。玉が馬の性能になる。

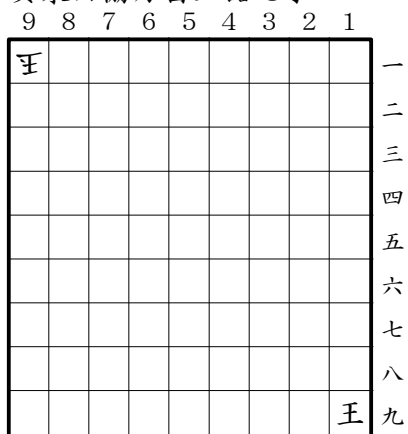
【強欲】

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

《第49回 WFP 作品展》 (再掲)
 解答締切：2013年3月15日 (金)

■ 49-1 神無太郎氏作

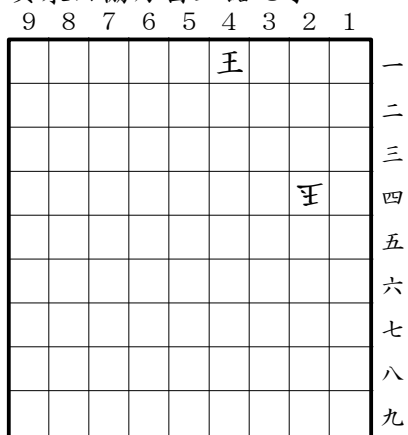
安東西協力白玉詰 8手



持駒 角

■ 49-2 神無太郎氏作

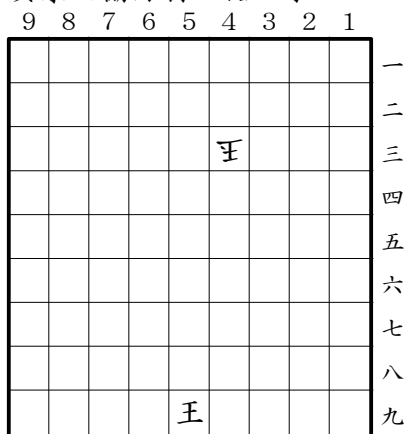
安東西協力白玉詰 8手



持駒 角

■ 49-3 神無太郎氏作

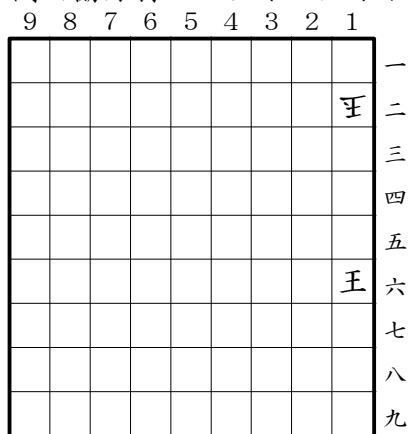
安東西協力白玉詰 8手



持駒 香

■ 49-4 神無太郎氏作

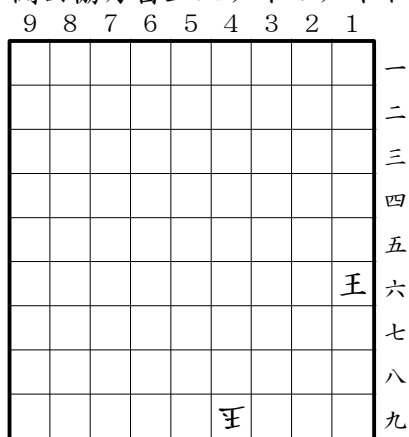
側面協力白玉スタイルメイト 8手



持駒 桂4

■ 49-5 神無太郎氏作

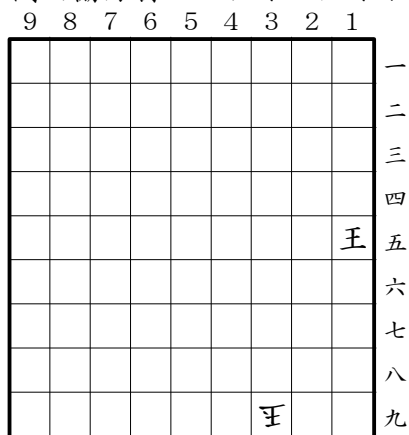
側面協力白玉スタイルメイト 8手



持駒 角

■ 49-6 神無太郎氏作

側面協力白玉スタイルメイト 8手



持駒 角

■ 49-7 変寝夢氏作

協力詰 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						王	龍	騎

攻方持駒Li
受方持駒なし

※騎 (ナイト) 及び Li (Lion) 使用

■ 49-8 たくぼん氏作

歩王協力詰 31手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								王

持駒 桂3

■ 49-9 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰 10手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								王
						歩		
						王	歩	
							龍	

持駒 角香

■ 49-10 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
		歩	歩					
			王					
				桂				
王								

持駒 飛

■ 49-11 上谷直希氏作

対面マドラシ協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
	王						王	

持駒 飛角

■ 49-12 上谷直希氏作

背面Kマドラシ協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						王		

持駒 飛角

■ 50-7 たくぼん氏作

強欲協力詰 79手

	ス						科	と	一
歩	手	銀	歩	銀		ス	角	と	二
香	龍					歩	ス	と	三
	歩	金		ス	垂	金	と	と	四
			銀						五
					龍				六
桂		香		銀				馬	七
		歩				香		歩	八
	桂	垂	香	歩	歩		垂	王	九

持駒 なし

■ 50-8 神無七郎作

成禁強欲協力詰 65手

						王			一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀桂歩16

以上



(芥川で撮影したカワセミ)

推理将棋第63回出題 担当：DD++

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第62回出題です。はじめての方は

どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門

(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をごらんください。

解答、感想はメールで2013年2月20日までにTETSUまで

(omochabako@nifty.com) メールのお題名は「推理将棋第63回解答」をお願いします。

推理将棋第63回出題 担当 DD++

あけましておめでとうございます(旧暦)! というやや無理矢理な理由とともに今月は年賀推理将棋特集(後半)です。全体的に手数がかかなり長めですが難易度が手数に比例するかとというところ……?

初級は担当から。2013を条件にねじ込んだほぼ一本道な作品。長くとも手を出せば絶対に解けます。中級はチャンプさんの年賀推理。巳年の表現の仕方が推理将棋ならではの作品で、解き味もまたあまり見ないものかも。上級は渡辺さんからの年賀推理第二弾、一見簡単そうですが担当は年賀の投稿作で一番長時間悩まされました。みなさんはどうでしょうか。

練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△34歩▲22角不成△44歩▲同角不成△42玉まで見てたけどどうなった?」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

63-1 初級 DD++作 大当たりの歩を求めて

20手

1箇所さえ間違えなければ絶連どころかほぼ一本道。

63-2 中級 チャンプさん作

2013(巳年)指し初め式の一局とは? 18手

これも悩むところは1箇所だけかと。

63-3 上級 渡辺さん作

歩と駒成

10手

技巧者渡辺さんの本領発揮。

■締め切り前ヒント (2月16日 DD++)

締め切り前ヒントです。

初級：龍では強すぎて失敗。飛は不成で使いましょう。

中級：「79歩成」から横に動いて「39と」まで。問題は紐駒ですが、後手陣から大駒を持ってくるのが早そうです。

上級：条件の「34歩」に惑わされないように。後手が33の歩を突いたとは限りませんよ。

63-1 初級 DD++作

大当たりの歩を求めて 20手

「あけましておめでとう。新年から何してるんだ?」

「さっき指した将棋の棋譜並べ。」

棋譜見てもらえればわかるけど、今年の指し初めに相応しい奇跡が起きたんでね」

「▲76歩△34歩▲66角△44角まではともかく、その後の▲36歩△74歩▲48玉ってなんだ。」

しかも8手目以降に着手された駒は3枚だけじゃないか」

「でもすごいだろう、2人あわせると20手で13枚の歩を取って詰んだんだぜ」

「君らは福袋を漁る主婦か何かなのか?」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- 20手で13枚の歩を取って詰んだ
- 指し始めの7手は▲76歩△34歩▲66角△44角▲36歩△74歩▲48玉
- 8手目以降に着手された駒は3枚だけ

※途中で成っても1枚は1枚です。

6 3-3 上級 渡辺さん作

歩と駒成

10手

6 3-2 中級 チャンプさん作

2013 (巳年) 指し初め式の一局とは? 18手

「毎年恒例の指し初め式に参加してきたんだって?」

「それがさ、僕が3手目に7筋の歩をぶつけてトイレに立って帰ってきたら終わってたんだよね」

「せっかく参加できたのにどんな将棋だったのか解らないまま帰ってきたの?」

「一緒に参加してた友達の話では18手で後手側が詰まして勝ってたらしいんだけどね」

「あら～そんな短手数で終わっちゃったんだ、内容については何か聞けなかったの?」

「駒成りは九段目に歩が成っただけって聞いたよ」

「ということは先手側はその“と金”にやられたのかな?」

「そういや4回連続“と金”で金駒(かなごま)を取ってたって言ってたな」

「となるとこの手順だね」

「なるほど、こんな将棋だったのか」

「これは有名な【マムシのと金】だね!」

「意外にも巳年に相応しい将棋だったんだね(笑)」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- ・ 18手で詰み
 - ・ 3手目に7筋の歩と歩がぶつかった
 - ・ 駒成りは歩が九段目へ成った手のみだった
 - ・ 4手連続“と金”で金駒(銀 or 金)を取った
- ※4回連続“と金”を動かして金駒(銀 or 金)を取って下さい(歩成で駒を取るのはカウントしません)

「さっきの将棋 34 歩に対して成る手で応じていたよね」

「うん。3 回目の成る手より後にも歩の着手があったよ」

「それで結局どうなったの?」

「10 手目 25 の着手で詰んだよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- ・ 10 手目 25 の着手で詰み
- ・ 34 歩に対して駒成で応じた
- ・ 3 回目の駒成の後に歩の着手があった

■練習問題解答

問題以下、▲62 角 △52 玉 ▲53 角上成まで。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	桂	銀	香		香	銀	桂	皇	
二		飛		角	王					
三	歩	歩	歩	歩	馬			歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩2

詰める形としては後手が2手(44歩と42玉)余る手順です。推理将棋では条件を満たすために一度詰みに無関係な寄り道をしてから詰み形に向かう独特の手順が生じることがあります。今回の場合だと例えば「3手続けて4筋に着手した」といった条件を満たすためにうまく無駄手を使って手順構成した感じでしょうか。

このような筋は作意よりむしろ余詰に非常に現れやすく、問題を作る時にはこういった筋にご注意を。

第14回詰四会フェアリー作品展

担当：たくぼん

今回の課題は、「四国名物」似たような課題を何回かやってきましたが、この課題もそろそろネタ切れのようで、投稿は神無太郎氏のみでした。2番～4番の3題は組曲となっております。何が四国名物か？そちらの方が難問かもしれません。

解答送り先

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

解答締切：平成25年3月17日（日）

第1番

神無太郎作

対面ばか自殺スタイルメイト 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛香4

第2番

神無太郎作

龍王成禁ばか詰 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂7

第3番

神無太郎作

飛王成禁ばか詰 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂6

第4番

神無太郎作

馬王成禁ばか詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂5

【ルール説明】

- ばか詰：先後協力して最短手数で、受方の玉を詰める
- 対面：敵駒と向かい合うと、互いに利きが入れ替わる
- ばか自殺スタイルメイト：双方が協力して最短手数で攻方をスタイルメイトする。
- 龍王、飛王、馬王：駒詰の一種。玉が龍、飛、馬の性能になる。
- 成禁：手順中に駒を成る手があってはならない。「詰み」や「王手」の概念は通常通り。

フェアリー駒は最初のうちはとっつきにくかったり、機能を間違えたりすることがあると思います（実は筆者も最初間違えました）が、要は慣れの問題です。普通に詰将棋を解く能力があれば、たいていのフェアリー駒は難なく扱えます。変寝夢氏は本局のようにフェアリー駒の基本手筋を抽出した問題を出題してくださるので、フェアリー駒に慣れる絶好の機会になると思います。

Lを使った詰将棋は 1990 年代以降に多く発表されています。その一つの例をご覧ください。

[参考] 若島正氏作

(Problem Paradise、2005 年 12 月)

詰将棋(L:Locust) 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金 銀

21 銀 同-11L 23 金 21 玉 22 金 まで 5 手
(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

初手 23 金では「同-14L」と取られてしまうので、21 銀の捨駒で 41L の利きを逸らしてから 23 金とします。最終手 22 金に「同-12L」とすると 24 飛の利きが直通するので、受けになりません。アンチキルケでも同様の手筋があ

りますが、駒を取った後、更に別の場所に移動するLの性質を利用すると、こんな詰上りも実現できるというわけです。

【短評】

DD++さん

99 玉の受けが独特で面白いですね。

たくぼんさん

やっぱり 11 に打ちたくなりますよね。

利きが不明確な 89 金も面白い。

一乗谷酔象さん

89 から 99 への動きが新鮮！

☆皆さんの感想にもあるように 99 玉の受けや、宙に浮いているような 89 金は本当に独特の感覚ですね。この作品は解答者全員正解でした。

■ 48-2 神無太郎氏作 (正解 3 名)

側面協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

【ルール】

• 側面

敵駒が横にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる。

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【解答】

53 桂 63 飛 33 桂生 43 香 32 桂成 22 飛

52 圭 同飛 まで 8 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王				一
				飛					二
			飛		香				三
									四
									五
									六
									七
									八
					王				九

持駒 なし

【解説】

「側面」という「対面」系の変則ルール。前回からの一連の作品群の続きです。(担当が変なところで区切ったため結果的に続きになってしまいました。)

本局は「側面」ルールと「対面」ルールの違いが明確に表れた作です。まずは詰上りを見てください。飛飛香3枚で縦3列を制する印象的な詰上りですね。しかし、この詰上りは対面協力自玉詰の双裸玉ではなかなかお目にかかれませぬ。飛2枚だけなら「対面」でも実例があります。

[参考] 神無六郎氏作

(詰将棋パラダイス、1993年9月)

対面協力自玉詰 10手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
									四
									五
									六
									七
									八
								王	九

持駒 桂

25 桂 22 玉 33 桂成 32 飛 13 圭 11 玉
22 圭 21 飛 12 圭 同飛 まで 10手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							飛	王	一
								飛	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
								王	九

持駒 なし

この作品のように対駒が飛の場合、それを発生させた圭が横に飛ぶことで、飛を盤上に残すことができます。しかし発生させたのが香だと、圭が香の利きになり、縦に動くときせつかく発生させた香を消してしまいます。従って飛飛香の詰上りを作るのは不可能ではありませんが面倒です。これが対面で飛飛香の詰上りに出会わない理由です。「側面」であれば側駒を発生させても、元の駒を縦に動かすことができるので、本局のように無理のない手順で飛飛香の詰上りを実現できるわけです。不動の玉をバックに、長方形を描いて消える桂の軌跡が鮮やかです。

なお、初形の59王は55以遠ならどの段に置くことも可能です。盤端を避けた方が空中捕捉の印象は強いと思いますが、この辺の選択は作者の好み次第でしょう。

【短評】

たくぼんさん

解答書くまで6手目から51玉,42成桂,52香までと思ってました。

解答書くときあれ?これスタイルメイトじゃんと気づき、しかも58王と出来るじゃん。

その後考え直して22飛を発見しました。

中央付近に目が行くためちょっと盲点になりました。

☆このところ太郎さんはスタイルメイト作品を連発していましたから、勘違いするのも無理ありません。とはいえ、この図を8手で自玉スタイルメイトにするのは、さすがに無茶ですね。

変寝夢さん

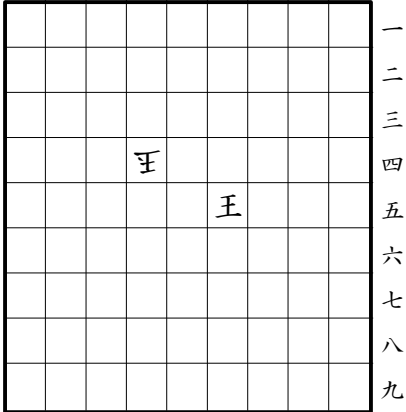
自玉が最下段にいたのでなんとか理詰めで解けましたが、中段玉だったらアウトでした。

☆ この評を見ると 55 玉の形が良かったのかも…と書いてしまいますね。

■ 48-3 神無太郎氏作 (正解 2 名)

安東西協力自玉詰 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛

【ルール】

• 安東西

味方の駒が横にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる。

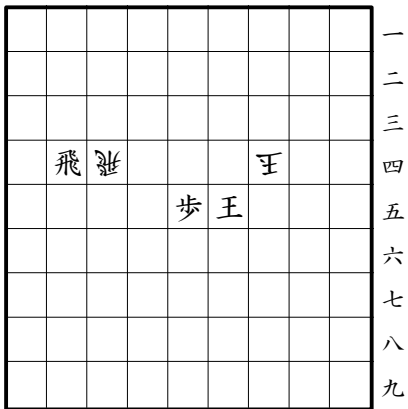
(行き所ない駒の概念はなし)。

【解答】

94 飛 84 歩 同飛 74 飛 55 歩 34 玉
まで 6 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

【解説】

本局は「安南」の手筋「歩頭玉」の横型、い

わば「歩側玉」の手筋を使った作品です。

「安東西」は安南系のルールの一つで、横のいる味方の駒の利きになります。「安南」での利きの変化が一方的(下の駒が上の駒に影響を与える)だったのに対し、「安東西」では相互に影響を与えます。その違いがこの「歩側玉」の手筋にも表れています。

「安南」の「歩頭玉」では、歩を打ってその形を作ることができませんでした。玉が歩の上に乗るか、歩が玉の下に移動するしかなかったのです。ところが「歩側玉」は違います。「安東西」での性能変化は相互的なので、歩は玉の性能になり、打歩で王手を掛けることができます。それが本局の 5 手目 55 歩です。

眼目の「歩側玉」が出来たあとは、飛になった玉の大移動で、歩になった攻方の王をこめかみから仕留めます。そのための 4 手目飛合も良い手ですね。

まずは安東西の基本手筋「歩側玉」を憶えて次の作品に進みましょう。

【短評】

たくぼんさん

横歩が定番なんですね。

変寝夢さん (※無解)

詰みそうで詰まない。玉側桂を狙ったが 3 3 を塞ぐことが、出来ませんでした。残念。

☆ 変寝夢さんは「玉側桂 (桂側玉)」の方を狙ってしまいましたか。確かに安南では「歩頭玉」より「桂頭玉」の方がポピュラーですね。

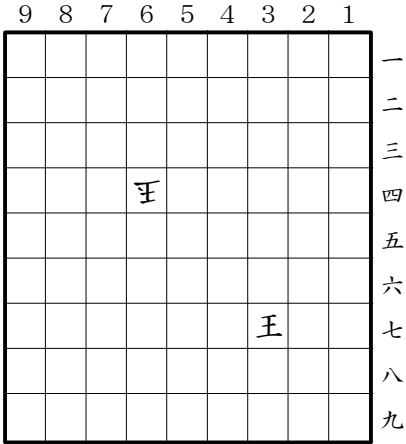
一乗谷酔象さん

連続合駒してもたったの 6 手で詰みですか。

☆ 合駒を動かす必要のない詰筋は手数短縮に寄与します。本局は玉で玉を詰ますことにより、合駒を動かす必要のない詰筋になっています。合駒を動かさない筋はいくつかのパターンがありますが、性能変化ルールだと、普通のパターンとは異なる独特の手筋があるかもしれませんね。

■ 48-4 神無太郎氏作 (正解1名)

安東西協力自玉詰8手

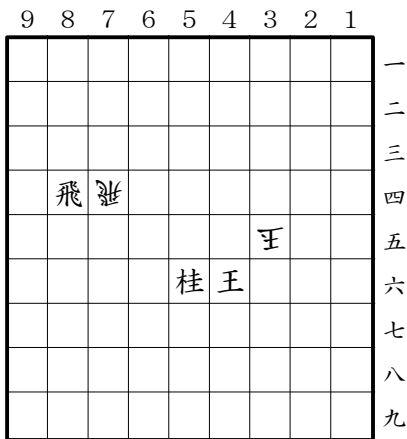


持駒 飛

【解答】

94 飛 84 桂 同飛 74 飛 56 桂 34 玉
46 王 35 玉 まで 8手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

前局の「歩側玉」に続き、本局は「桂側玉」。安南の手筋である「桂頭玉」の横版です。本局を難しくしているのは桂側玉の作り方。安南の「桂頭玉」は「歩頭玉」と異なり、桂を打ってその形を作ることができます。従って、自玉の下から桂を打って王手し、受方の玉が攻方の頭に突っ込んで詰める形が、安南自玉詰の定番となっています。そのイメージが残っていると、玉の方から桂に近づく本局の作意に辿り着くのは容易ではないでしょう。また、最後も受方玉は攻方玉の頭には突っ込めません。すぐ横の桂が玉頭に利いているためです。前局では合駒の飛は玉を飛ばすだけの役割でしたが、本局では攻方玉の逃げ道封鎖の役

割も果たしています。「桂側玉」という「安東西」の基本手筋を示すと同時に、その手筋を一捻りした作品です。

【短評】

たくぼんさん

次は桂と予想通り。
先手玉が動く1手が効率よし。

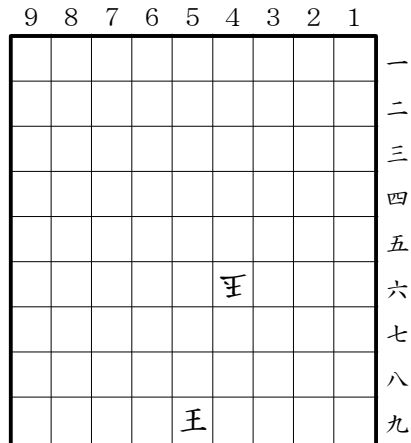
変寝夢さん (※無解)

2 7 桂～4 6 玉がチラついてしまって・・・。

☆ 詰上りは桂を使う基本手筋でしたが、どうやら自玉が動く手が盲点になったようで、正解はたくぼんさんのみでした。

■ 48-5 神無太郎氏作 (正解2名)

安東西協力自玉詰8手

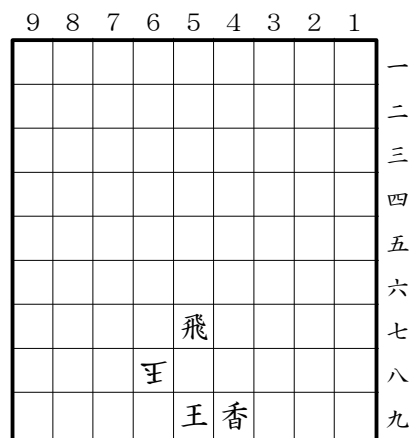


持駒 香

【解答】

48 香 47 飛 同香 56 玉 57 飛 67 玉
49 香 68 玉 まで 8手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

香が真後ろに下がる衝撃的な作。

まず初形を見て、「歩側玉」「桂側玉」との連想で「香側玉」の形で詰ませるのは見当が付くでしょう。ただ、持駒香1枚では駒不足です。合駒を稼いで「香側玉」の形を作る手としては次の手順がまず浮かぶのではないのでしょうか。

49 香 48 X 合 同香 5X 玉 58 王 …

しかし、本局では自玉で王手するという前局で使った手段は採りません。香で王手することすらしません。となると他に王手する方法はなさそうですが…実はあるのです！

性能変化ルールでしばしば盲点になるのは、性能を変化させる手ではなく、変化した性能を元に戻す手です。それが本局の7手目 49 香。移動する駒と王手する駒が異なるという点で「開き王手」と同種の手ですが、本局の 49 香は移動した先で性能変化を発生させるので、性能変化と性能復元を同時に行う手ということになります。「開き王手」との対応で言えば、「開き王手と同時に他の走り駒の利きを遮断した手」に相当する手なのです。

このように 49 香は理論的に面白い手ですが、真っ直ぐ前に走るはずの香が、真っ直ぐ後ろに下がるその動きには理屈抜きの面白さがあります。飛の横をすり抜けるような6手目 67 玉もそうですが、感覚的に抵抗感の強い手順を指す「決断」が要求される作品です。

【短評】

たくぼんさん

今度は香が活躍。

67 玉や 49 香など見慣れぬ動きに一苦労。

変寝夢さん (※無解)

実質7手詰なんですけど、分かりません。玉側香に香で返すパターンかな？

例えば、48 香、47 角、同香、56 玉、37 角、57 玉、69 香とかなんですけど・・・。

☆ 変寝夢さんの挙げた紛れは結構きわどいのですが、この後 58 銀合などでは「同香」が可能なので詰みません。「X側玉」の形は玉頭が常に守られているので、玉のコピンを攻める筋の方が有効です。

一乗谷酔象さん

57 飛～49 香とは全く盲点の手順。

■ 48-6 神無太郎氏作 (正解1名)

安東西協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

【解答】

47 飛 57 飛 同王 86 玉 56 飛 77 玉

47 飛 67 角 まで 8手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

ここまでは「X側玉」を玉で詰ませるパターンでしたが、ここでいよいよ別の駒で詰ませるパターンが登場します。しかも、本局は初手から早くも難関が待っています。47 飛限定打から合駒を玉で取って王手する手順がそれです。

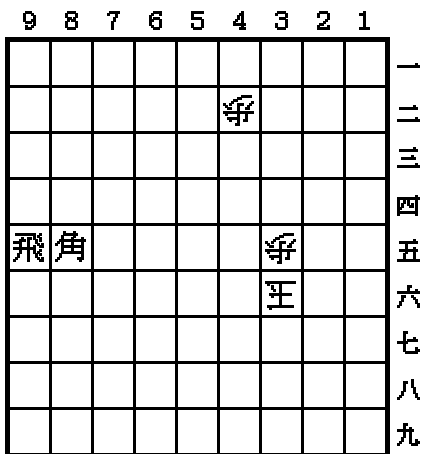
合駒を取る駒は、王手をしたその駒自身であることが詰将棋では一般的です。他の駒が取る場合はその駒でも王手ができなくてはいけません。玉は通常王手を掛けない駒なので、その「他の駒」が玉であるというのはなかなか思いつきにくいのです。これは性能変化ルールならではの盲点です。

もう一つ、この手が思いつきにくい理由があります。この形で合駒を取る駒は、それが王手にならないといけません。その駒に要求される性能は飛の性能です。王手駒以外で合駒を取るの、別種の駒の利きを活かしたい場合が多いので、同じ利きを持った別の駒で取るという手はなかなか浮かびにくいのです。

性能変化ルールではありませんが、神無三郎氏の「源泉館」で、「角に対する合駒を別の角で取る」という狙いの作品があり、筆者は相当苦戦した記憶があります。

〔参考〕神無三郎氏作「源泉館(7)」No.70
(詰将棋パラダイス、1988年3月)

ばか詰 5手



持駒 角

(解答略)

5手目以降も面白い手順は続きます。初手に打った飛を移動して、自玉の性能を復元し、相手玉を近付けた後、更に合駒で得た飛を初手と同じ場所に打ち直すのです。

そして最後は 67 角の限定合。これは玉の利きになった角で王手を掛けると同時に、玉の性能を角にして 59 の脱出路を塞ぐ好手です。この瞬間、77 玉は角の性能ですが、67 同王とすると玉本来の利きが復活するので、結局は同王と取ることはできません。67 角には「影の利き」が付いているのです。

本局には個々の好手だけでなく、全体的な手順も趣向的な味があります。受方はミニ玉鋸ですし、攻方の手順は玉飛鋸への応用が可能であることを暗示しています。今シリーズの中屈指の好作だと思います。

【短評】

たくぼんさん

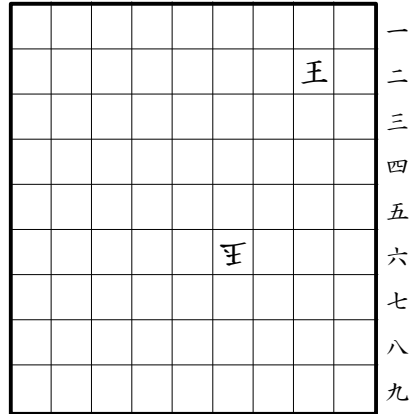
次は飛。
でも最終手の角打の方に感心しました。

☆ この角打は後の 48-8 で、更に印象的な形で出てきます。ぜひご記憶を。

■ 48-7 神無太郎氏作 (正解 1名)

安東西協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



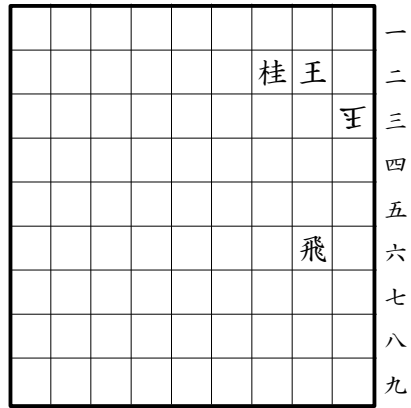
持駒 飛

【解答】

16 飛 26 桂 同飛 35 玉 36 桂 24 玉
32 桂生 13 玉 まで 8手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

【解説】

本局は基本に戻って「桂側玉」。構造的には 48-5 と同じで、性能変化の解除と発生を同時に行います。それが 7手目 32 桂生。2段目の桂が「行き所ない駒」の存在しない「安東西」の性質を炙り出します。利きが変化する一瞬を利用して、飛の前を斜めに通過する玉の動きも面

白いですね。

本局の正解者もたくぼんさんのみ。「桂側玉」自体は 48-4 で出てきましたが、こちらは桂が飛んでその形を実現します。詰型を作る駒が一旦は別の駒に変身して遠い場所から移動してくる構成は、詰型の想定が困難なんですね。

仮に動くのが1枚ではなく2枚になると、もっと想定は難しくなります。そんな作品があるかって？ あります！ 詰パラ3月号に掲載される「第37回神無一族の氾濫」の結果稿でぜひそれをお確かめください。

【短評】

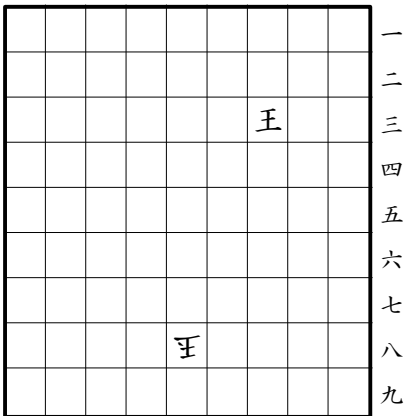
たくぼんさん

この桂の動かし方は勉強になります。

■ 48-8 神無太郎氏作 (正解1名)

安東西協力白玉詰8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

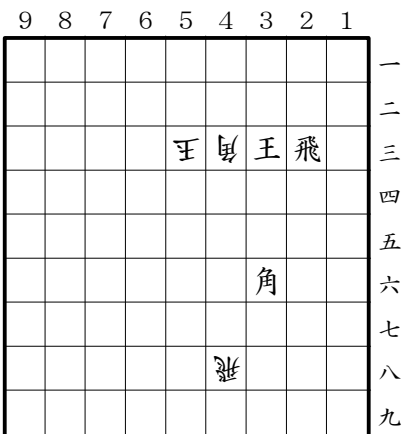


持駒 飛

【解答】

18 飛 28 角 同飛 48 飛 36 角 53 玉
23 飛生 43 角 まで 8 手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

48-6 の応用編。飛に化けた玉で横から王手を掛け、それに対して玉角のコンビで応じる詰上りです。48-6 と違い、玉角の3筋への利きの範囲を目一杯(31 から 35 まで)使っているのも、実に経済的。しかも自玉の利きの範囲をその範囲に制限するため、5手目 36 角という伏線的な限定打が入ります。舞台を移すため、飛の動きをする玉とそれに追従して動く攻方の飛の対応(そして不成限定での移動)もあり、見所満載の手順です。

玉2枚と大駒が総登場し、手順も充実。48-6 と甲乙つけがたい好作です。

【短評】

たくぼんさん

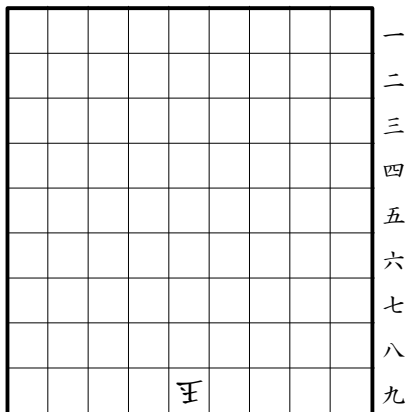
詰上りを見越しての 36 角が素晴らしい限定打。最後の角打は手筋に見えてきました。

☆ いわば「角側玉」でしょうか。「歩側玉」や「桂側玉」が詰められる側の手筋とすれば、「角側玉」は詰める側の手筋と言えそうです。

■ 48-9 若林氏作 (正解2名)

強欲協力詰17手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 金3 桂 歩3

【ルール】

• 強欲

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【解答】

58 金 同玉 57 金 同玉 49 桂 56 玉
57 歩 45 玉 37 桂 44 玉 45 歩 33 玉
25 桂 32 玉 33 歩 31 玉 32 金 まで 17 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一
						金			二
						歩			三
									四
					歩		桂		五
									六
				歩					七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

強欲詰の条件だけではどうしても合駒の使えない桂を据えての追い詰めにはかならない感があります。

【解説】

作者曰く、『求む、多持駒裸玉！』に引っ張られて、昔の在庫を掘って来ました。筆者が第45回 WFP 作品展結果稿 (WFP52号) で呼び掛けたのに応えてくれた作品の一つです。

本局はまずは小手調べ。桂が跳ねるのを歩が助けていく趣向的な手順を裸玉に適用したものです。本来なら記録作としての側面より、この趣向的な手順を鑑賞の中心に据えるべき作かもしれません。

この作品は持駒枚数が7枚ですが、作者も言うように、他の条件を付けずに持駒の枚数を増やすのは難しそうです。枚数を増やすと手数も増えますが、手数が増えると成駒を作る筋の余詰を防ぐのが困難になるからです。では、ルールの方を少し変えるとどうなるか？ そうした発想で作られたのが次の作品です。

【短評】

たくぼんさん

私も調べていたので同一作を持ってました。最長は19手(19玉、+金2桂3歩2)(39玉、銀2桂3歩2)かなと思います。

☆ 同じ持駒7枚ですが手数は上回ってますね。ちゃんと調査したわけではありませんが、この辺りの枚数が強欲協力詰の裸玉の持駒枚数の限界なのでしょう。

■ 48-10 若林氏作 (正解2名)

強欲打歩成禁協力詰 27手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
								王	九

持駒 金2 銀 桂 歩6

【ルール】

• 打歩

打歩詰以外の詰手を禁手とする。

• 成禁

手順中に駒を成る手があってはならない。「詰み」や「王手」の概念は通常通り。

【解答】

18金 同玉 17金 同玉 29桂 16玉
17歩 25玉 37桂 24玉 25歩 33玉
45桂 42玉 53銀 41玉 42歩 51玉
52歩 61玉 62銀 52玉 53銀 61玉
62歩 51玉 52歩 まで 27手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
			歩	歩	歩				二
				銀					三
									四
					桂		歩		五
									六
								歩	七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

標準持駒で、ルールの拡張をする方向ではこんな形になりました。序に一応紛れが出来たのと、収束がちょっと気に入っていたので。

【解説】

本局は多持駒裸玉へ別方向からのアプローチを試みた作品です。つまり、ルールを固定して持駒を変えるのではなく、ルールの方を微調整して多くの駒を使う筋が成立するように持っていくやり方へ転換したのです。

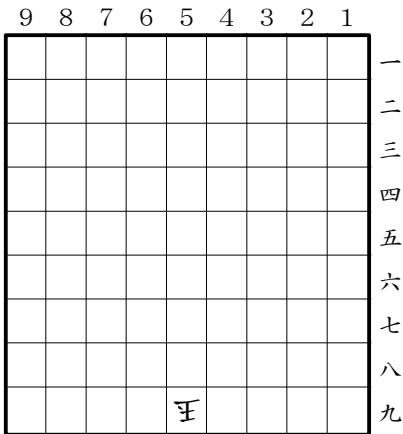
前局でも明らかなように、「強欲」単独の条件下で裸玉を作った場合、成れるとすぐ終了してしまい、あまり持駒を増やせません。そこで本局では「成禁」の条件を付けています。「強欲」以外でも駒が成れると簡単に詰むルールは多いので、成禁の条件の付加はもっと様々なルールで試みられて良いと思われます。

本局には更に「打歩」の条件が付加されています。これは直接的には前局の筋（頭金での詰上り）を防いでいます。やや強引に見えますが、これによって金を先に使って銀を残すという、解答者心理に逆らう手を成立させているわけです。序は前局と同様ですが、玉を下段に落とすからの繊細な駒繰りが本局の見所です。

また、作者は「成禁」以外の方法として「受方持駒制限」も試みたそうです。以下は試作例で、駒数もあまり多くないですが、こういった「微調整」でも大きな成果が上がる分野があるかもしれません。

〔参考図1〕若林氏作

強欲協力詰 15手



攻方持駒金2 桂 香 歩

受方持駒なし

(解答は本稿の末尾に)

「強欲」条件下では持駒制限だけだと多持駒裸玉は難しいと思いますが、他のルールではこれ単独でも結構大きく影響するものがあると思います。多持駒を目的とするのではなく、構想的な裸玉も作れるかもしれません。

【短評】

たくぼんさん

これは面白い作品。玉座での詰上がりが見事。

一乗谷酔象さん

33 桂生を入れたら手数オーバーでした。

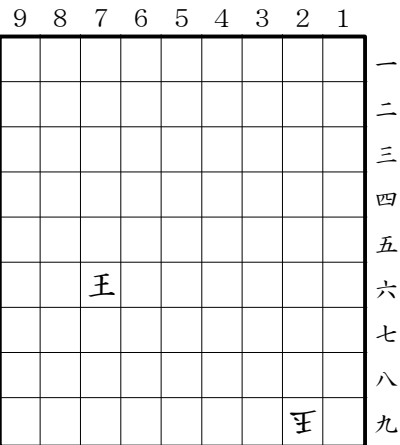
☆一乗谷酔象さんが読んだ筋は以下の順でしょうか？

18 金 同玉 17 金 同玉 29 桂 16 玉
 17 歩 25 玉 37 桂 24 玉 25 歩 33 玉
 45 桂 42 玉 53 銀 51 玉 52 歩 61 玉
 62 銀 52 玉 53 銀 61 玉 62 歩 51 玉
 52 歩 41 玉 42 銀 52 玉 53 銀 41 玉
 33 桂 51 玉 52 歩 まで 33 手

☆桂を活用して歩を節約する筋は有力ですが、この場合は結局歩を使わされてしまい、手数だけ損する結果になってしまいます。強欲詰は駒取り優先で、思い通りの動きをしてくれないのが難しいところですね。

■ 48-11 若林氏作 (正解1名)

強欲協力詰 45手



持駒 銀4 歩9

【解答】

38 銀 同玉 47 銀 同玉 56 銀 同玉
 67 銀 55 玉 66 銀 64 玉 65 歩 74 玉
 75 銀 73 玉 74 歩 83 玉 84 歩 94 玉
 95 歩 同玉 86 銀 84 玉 85 銀 93 玉
 94 歩 83 玉 84 銀 74 玉 75 銀 73 玉
 64 銀 83 玉 84 歩 94 玉 95 歩 同玉
 96 歩 84 玉 85 歩 74 玉 75 銀 83 玉
 84 銀 94 玉 95 歩 まで 45 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
王	銀								四
歩	歩		歩						五
		王							六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

元ネタは第6回作品展の橋本さんのこの作。

強欲協力詰 59手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						王			三
									四
						銀			五
									六
									七
									八
						王			九

持駒 歩18

収束部分が双裸玉になるかな？
 と思ったらあっさりなりました。

作品としての発表の意義はないのでそのまま埋めておいたものです。

【解説】

本局は条件の付加とはまた別の方向、双裸玉に活路を求めたものです。双裸玉は単玉と比べて格段に表現力が高いので、期待される手順の水準も高くなりますが、その分作家にとって取組み甲斐のある分野でもあります。

手順を見ていきましょう。

序盤は銀で玉を呼び出すしかなく一本道ですが、67銀で橋頭堡を築いてからは細やかな配慮を要求される手順が続きます。強欲詰は結構繊細で、せっかく足場を築いても、それを放置したままだと、「強欲」条件のせいでその足場を取りに行く手を指さざるを得なくなり、不詰になることがあります。逆に足場がないと単に駒

を取って不詰となります。つまり、適度に足場を作っては、不要な足場を撤去する作業を繰り返さねばなりません。

また、紛れも結構強力です。作意は突歩詰を狙いに行くのですが、本局は前局と異なり「成禁」の条件が付いていないので、駒を成って詰めたくなくなります。最も際どいのは次の手順です。

- 38 銀 同玉 47 銀 同玉 56 銀 同玉
- 67 銀 55 玉 66 銀 64 玉 65 歩 74 玉
- 75 歩** 63 玉 64 歩 同玉 65 銀 73 玉
- 74 銀 84 玉 85 銀 93 玉 94 歩 83 玉
- 84 歩 73 玉 74 銀 84 玉 85 銀 73 玉
- 74 銀 82 玉 83 歩 72 玉 63 銀生 83 玉
- 84 歩 94 玉 95 歩 同玉 96 歩 84 玉
- 85 歩 83 玉 74 銀成 94 玉 84 全 まで 47 手

更に、歩8枚で詰める紛れ筋もあります。

- 38 銀 同玉 47 銀 同玉 56 銀 同玉
- 67 銀 55 玉 66 銀 64 玉 65 歩 74 玉
- 75 銀 73 玉 **64 銀** 84 玉 75 銀 95 玉
- 86 銀 84 玉 85 銀 73 玉 74 歩 83 玉
- 84 歩 93 玉 94 歩 82 玉 83 歩成(生) 同玉
- 84 銀 74 玉 75 銀 73 玉 64 銀 83 玉
- 84 歩 94 玉 95 歩 同玉 96 歩 84 玉
- 85 歩 74 玉 75 銀 83 玉 84 銀 94 玉
- 95 歩 まで 49 手

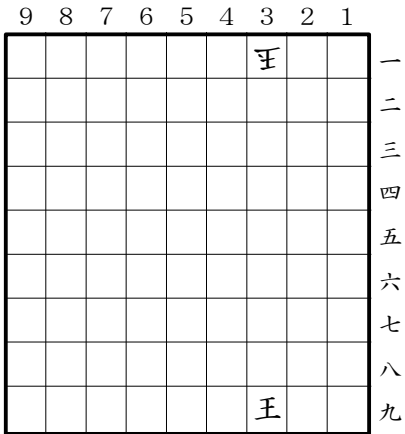
非限定がなければこれを作意にしたいくらいの手順ですが、上記の成生以外の非限定や銀を成る早詰もあるので、完全作にはなりません。本局の持駒歩の「9」という枚数は、これ以上でも以下でもだめという絶対的な枚数だったので。

ところで、作者のコメントに筆者の作品があったのですが、この投稿を受け取るまですっかり忘れていました。そういえばこういう作を作っていましたね。このときは趣向手順の実現と歩18枚消化が目標だったので、双裸玉は狙っていませんでした。

ただし、今回出題した作品は若林さんがすぐに思いついた図とは別バージョンの図です。若林さんが最初に思いついたのは以下の図だったそうです。

〔参考図2〕若林氏作

強欲協力詰 43手



持駒 銀 歩14

(解答は本稿の末尾に)

確かにこれでは原図の収束そのままですね。それに31玉を51玉にすれば歩を2枚増やして51手詰にすることもできます。

今回の出題図は自玉を中段に上げた構図です。収束手順自体は元の図とあまり変わっていませんが、持駒に強力そうな銀が4枚もあることや、構図を中段に上げたことで紛れが強力になった(成駒を作る筋を狙いたくなる)ことで、原図とは異なる味わいが出ているのではないのでしょうか。

また、これらの若林さんの作品を見ているうちに、筆者も成禁強欲協力詰で持駒 18 枚の裸玉を見つけました。第 50 回作品展でその図を出題しましたので、今回の結果稿を参考に解答をお寄せください。

【短評】

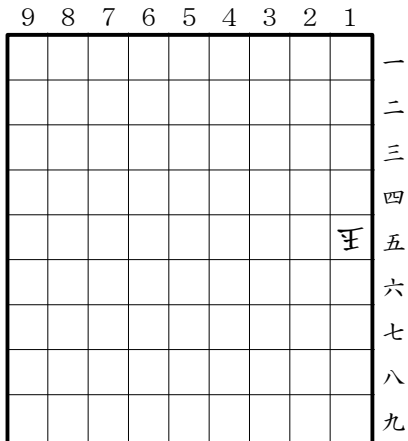
たくぼんさん

31 手目 64 銀以降が素晴らしく考えさせられる手順。感心しました。

☆たくぼんさんは強欲詰のエキスパートですが、それでも少し手ごわかったようですね。小駒を中心とした繊細な駒繰りは、強欲協力詰の醍醐味だと思います。

■ 48-12 上谷直希氏作 (正解 2 名)

アンチキルケマドラシ協力詰 5手

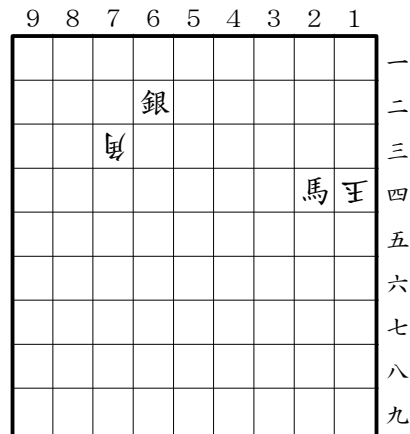


持駒 角 銀

【解答】

51 角 73 角 62 銀 14 玉 24 角成 まで 5手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

言うまでもなく、氾濫に向け、少しでもマドラシアンチキルケに慣れていただきたいと思い、なかば強引にこしらえたものです。

【解説】

「第 37 回神無一族の氾濫」では素晴らしいアンチキルケマドラシ作品を見せてくれた作者 (詰パラ 3 月号に結果稿が載るので、解いていない人は少々お待ちください)。本局はこのルールに馴染んでもらうための入門的作品です。急ごしらえの作とのことですが、このルールのツボはきちんと押さえられているので、手順を追って鑑賞していきましょう。

まずは初手 51 角。もちろん限定打なのですが、すぐには限定となる理由が分かりません。馬を作れる位置は他に 42 と 33 がありますが、

なぜこの2つではダメなのか後で振り返ってみましょう。

本局の白眉は2手目 73 角。マドラシの効果で 51 角の利きを消す手です。しかし、これもなぜ限定なのかすぐには分かりません。そして3手目 62 銀が消えた角の利きを復活させるマドラシならではの手です。4手目 14 玉で詰み易い位置に移動。そして 24 角成がとどめの一手です。これは同玉と取るとアンチキルケの効果で玉が 51 に戻されてしまい、62 銀の利きに入ってしまう反則になります。

ここに来てようやく初手 51 角の意味が判明します。初手 42 角や 33 角に対し、作意と同じように 64 角や 55 角で受けると、次の銀打ちが 53 や 44 といった場所になります。これでは銀が 51 地点に利きません。また、初手 33 角から 51 角、42 銀とすると、今度は 51 地点が埋まっているせいで最後の 24 角成に対し「同玉」と取れるようになってしまいます。

次に2手目について調べましょう。2手目に 73 角以外、例えば 84 角とすると、最終手に対して 57 角成と受けることでできてしまいます。マドラシでは成駒と生駒は別種の駒として扱います。馬に対しては馬で受けなければいけません、それを防ぐのが初手 74 角の狙い。つまり、「成らないための限定打」だったのです。

協力系の裸玉については、神無太郎さんが絨毯爆撃の手法を駆使し、広範で包括的な調査を行っており (<http://homepage1.nifty.com/kamina/taro/hn/index1.htm> 参照)、本局もその調査結果の中に含まれています。ただし、投稿はこちらが先だったことを付け加えておきましょう。更に付け加えるなら、「氾濫 37」で発表された作品も投稿は f m で「アンチキルケマドラシ」がサポートされる前でした。上谷さんの作品が、神無次郎さんに f m の拡張に乗り出す動機を与えたのです。前号の「裸詰鑑賞」の論考も刺激的でしたし、複合マドラシ系のルールもいよいよ本格的な研究が行われる時代が来たのかもしれない。

一人の活動がもう一人の活動を刺激する…
こういう連鎖が詰将棋界を活発化させます。

【短評】

たくぼんさん

73 角限定が素晴らしく、かつてのアンチキルケ作品展に出題すれば1位間違いのない傑作。

一乗谷酔象さん

2 手目の限定打で引締まりました。

☆やはり2手目が好評でした。この1手は手順の表に出る意味(51 角の利きを消す)と、隠れた意味(成れない位置に打つ)という2重の意味があり、意味の濃い一手になっています。

【総評】

たくぼんさん

最近目は新しいルールが多く、付いて行くのにも大変です。でもそれなりに楽しいですが。

☆昨年暮れ「WFP 作品展登場ルール一覧」の資料を更新したら、記述の量がかなり増えて驚きました。ここ数回では、変寝夢さんがプロブレム系の駒やルール、神無太郎さんは安南系や対面系の新ルール、そして上谷さんが複合マドラシ系の新ルールによる作品を見せてくれています。今後もどんどん増えていきそうです。

変寝夢さん

いやー、参りました。

解説がかなりハードになりそうですね。

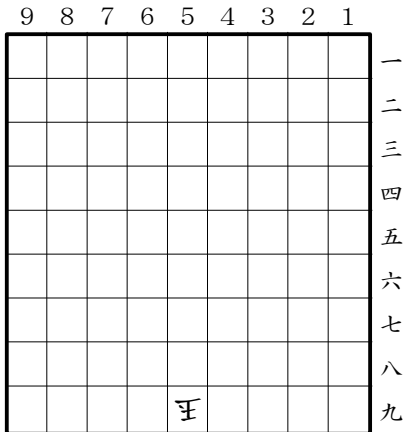
☆確かに12題ともなると、少しハードですね。でも、詰パラ等を書く原稿と違ってページ数に制限がないので、筆者は割と思いつまま文章を書いています。その分、推敲不足のままダラダラと長い文章になって読みづらいかもかもしれません。読者の皆さんは冗長な所はうまく要点のみ抽出し、足りないところは補って読んでいただくようお願いします。



(3匹のヌートリア：1月上旬津ノ江公園にて撮影)

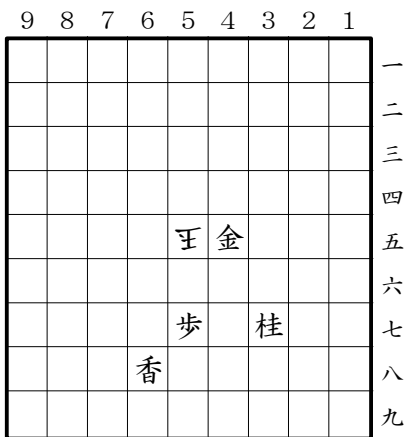
[参考図1の解答]

強欲協力詰 15手



攻方持駒金2 桂 香 歩
受方持駒なし

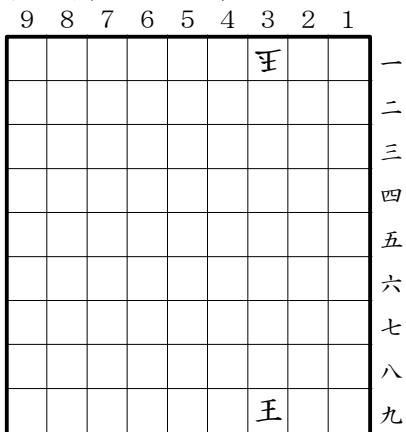
58 金 同玉 57 金 同玉 49 桂 66 玉
69 香 68 金 同香 56 玉 57 歩 45 玉
37 桂 55 玉 45 金 まで 15手
(詰上り)



攻方持駒なし
受方持駒金

[参考図2の解答]

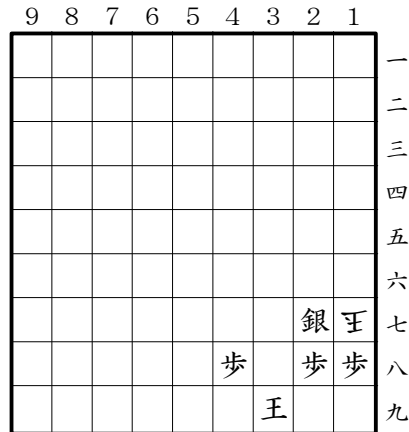
強欲協力詰 43手



持駒 銀 歩14

32 歩 同玉 33 歩 同玉 34 歩 同玉
35 歩 同玉 36 歩 同玉 37 歩 同玉
28 銀 47 玉 48 歩 36 玉 37 歩 26 玉
27 歩 16 玉 17 歩 25 玉 26 歩 同玉
27 銀 37 玉 38 銀 36 玉 47 銀 26 玉
27 歩 17 玉 18 歩 同玉 19 歩 27 玉
28 歩 37 玉 38 銀 26 玉 27 銀 17 玉
18 歩 まで 43手

(詰上り)



持駒 なし

以上

「第38回神無一族の氾濫」ゲスト参加募集

「第38回神無一族の氾濫」へのゲスト参加を募ります。

今回は「攻方が損をするフェアリー作品」を募集します。普通の詰将棋では攻方が損をしているように見えても、必ず何かの代償を得ています。しかし、フェアリーでは純粋に攻方が損することは珍しくありません。例えば自殺系のルールでは、持駒を邪魔駒として捨てる手筋が頻繁に使われます。

そこで今回の「氾濫」では攻方が代償を得ずに損をするフェアリー作品を募集します。ここで言う「損」は「駒損」を想定していますが、「手損」や駒の性能に関係した損（ただし打歩詰に無関係なもの）でも構いません。

作品要件	攻方が損をするフェアリー作品
募集締切	2013年4月15日(月)
募集作品数	4 (+α)
送り先	神無七郎(janacek789@ybb.ne.jp) 上記宛先へE-mailでお送りください。
備考	1人何作でも投稿可。 メールの件名に「作品投稿」の語を入れてください。 採否は4月21日までに通知。

Fairy of the Forest #34結果発表

- 2012年11月20日：課題発表：(協力詰) 合駒を動かす
- 2013年01月15日：投稿締切
- 2013年01月20日：出題
- 2013年02月15日：解答締切
- 2013年02月20日：結果発表

■ 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)
 (○は全題正解者、◎は作図問題も出品)

◎神無七郎、◎赤土陽一、◎もず、
 ○隅の老人B、○占魚亭

☆久しぶりの解答が多かったです。
 今後もよろしく。

☆作図問題は後回しにして、まずは解図の方から。

■ 34-01 神無太郎 協力詰 11手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
																			三
																			四
																			五
																			六
																			七
																			八
																			九

持駒なし

73馬 64馬 同馬 55金 46角 同金
 同馬 37角 28銀 同角生 29金 まで 11手

(詰上り図)

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
																			三
																			四
																			五
																			六
																			七
																			八
																			九

持駒なし

作者一新しさはないが合駒移動2回でまづまづか。

☆得意の合駒物で、手慣れた技を見せてくれました。

隅の老人B—まずは64馬の移動捨合、続いて55金の捨合。まだまだ妙手が続きます。11手で合駒が2度動いた、お見事。

☆55金をすぐにとってしまうと後が続かなくなるので、46角、同金と受方に角を渡してから取るのがポイント。37角合とさせれば、29銀を28に捨てるのが可能になり、29金まで詰め上がります。

占魚亭—移動合に合駒移動2回、うまいなあ。

もず—受方の馬を生角に変換するためのやりとり。さすがに手慣れていますね。

赤土—28にはたくさん利いているので、29に金を打つての詰め上がりを想定して解きました。斜めに馬がひらりと降りて来るとは、ペガサスが舞い降りて来た いや、金を介しているから、第四コーナーから、予想馬が順位を下げ続けているといったところか。

☆右回りなので、東京競馬場でしょうか(笑)。

七郎—収束から逆算して解答。作図問題もこの路線(王手駒の利き筋を合駒が移動する)かと思ったのですが、駒数を減らすのが難しかったです。

☆太郎氏の作図問題解答については、ご推察のとおりでした。

■ 34-02 神無七郎 協力詰 25 手

				科	科	銀		一
			龍	金	金	銀	全	二
			馬		桂	王	銀	三
		龔			歩	角		四
				王	科	香	香	五
				香	香			六
								七
								八
								九

持駒 金香4

14 金 同玉 19 香 18 金 (途中図)
 17 香 同金 16 香 同金 15 香 同金
 同香 23 玉 14 金 34 玉 52 馬 43 香
 64 龍 54 香 同龍 44 香打 45 龍 同香
 26 桂 同金 35 香 まで 25 手

(詰上り図)

				科	科	銀		一	
				馬	金	金	銀	全	二
					皇	桂		銀	三
		龔			王	角	金		四
				王	皇	香	香	香	五
				香	香		香		六
									七
									八
									九

持駒 なし

作者一久しぶりに課題に忠実に作りました。
 合駒をすぐに取りらずに、香を渡してから取るのが主眼です。

☆課題を満たした上で、別のテーマを表現されることが多かったのですが、今回は課題をストレートに表現してくれました。

隅の老人B一巧にして妙。3手目の香打に応じて18金合、続いての3香の犠打？が妙中の妙。これ以後の香の使い方も上手い。よくもまあ、こんな構想が実現できるとは、ほんとと感心です。

☆初手 34 金と打てず、また3・4手目の打場所限定を考えると、途中図までは必然です。

(途中図：4手目18金まで)

				科	科	銀		一
			龍	金	金	銀	全	二
			馬		桂		銀	三
		龔			歩	角	王	四
				王	科	香	香	五
				香	香			六
								七
								八
							香	九

持駒 香3

☆ここから受方に香3枚を渡すのがポイント。合駒の金が後ずさりしていきます。

占魚亭一必然の流れですが、後半の3連続香合が力強く好きです。

赤土一52馬や64龍と王手をかけたときの合駒を玉方に与えなくてはならないと気づき、前半の金バックの手順が判明し、解けました。玉方に渡った3枚の香が全て合駒に使われ、そのうち1枚がとどめに使われる様は、合鍵を大家さんから3本もらったのに、2本めの鍵をしまう場所がまずく、その鍵で空き巣に入られたといったところでしょうか。

もず一駒を受方に渡さなければ詰まないという構想ですが、香3枚を一度に渡すという例はこれまでにあったでしょうか？この図を見ても、実現するのが簡単でないように思えます。

☆占魚亭さんのおっしゃるとおり「必然」と言えばそうなのですが、実現するのはやはり容易ではなさそうです。作者の手腕に乾杯！記録面は、ちょっと分かりかねますが…。

■ 34-作

太郎一もう1題投稿する。普通に出題すると面白くないので、作図問題の特別枠を作って出題してくれんか。

☆ということで、下記の問題とともに作者が送ってきたのが①図でした。

～問題再掲～

合駒が動く最小の協力詰（受先不可）を作れ。

最小とは、

- A.手数最小
- B.使用駒数最小

C.初形面積最小

のことで、前の条件ほど優先。ただし、初形面積とは、配置駒が収まる矩形の面積です。

① 神無太郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							飛	銀	五
							銀	王	六
							歩		七
									八
									九

持駒 香

19香 18金 17銀 同金 26飛 まで

☆「5手、6枚、6マス」です。

太郎—これが最小と思う。5枚はないと思うが…。

☆ところが、数日後、北村太路氏から②図が送られてきました。「5手、5枚!、12マス」です。北村氏は当然「最小」を意識せず、普通の課題作として投稿されたのですが、すでにこの時点で、太郎氏の予想は外れたことになりました。そこで、北村作をこちらに転載した次第ですが、作者には改めてお詫びします。

② 北村太路

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				角					六
				龍					七
							馬		八
							王		九

持駒 なし

37龍 38金打 48龍 同金 29金 まで

☆さて、5枚でできると判れば、後は初形面積です。北村作を参考に試行錯誤した結果、私が

得たのが③図です。

③ 神無八級

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							飛		一
							銀	銀	二
							角	王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

11飛成 12金 22龍 同金 14飛 まで

☆「9マス」に縮めることができました。なおこの図は、全体を1段もしくは2段下げることでも可能です。2段下げたときは銀を角に替えても(34角)可です。

☆さて、他の応募作はどうだったのでしょうか?

④ 神無七郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							飛	銀	二
								王	三
							角	銀	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

33飛成 23馬 24龍 同馬 12飛 まで

☆飛角図式で、馬の移動合になっています。受方の飛は龍でも可で、全体を1段下げても可です。

⑤ もず

										一
										二
										三
										四
				王	銀					五
			歩		龍					六
					龍					七
										八
										九

持駒 なし

57 龍 56 金 46 龍 同金 65 飛 まで

☆都玉で、詰上りも綺麗です。47 龍は 67 龍でも可です。また、全体を上下左右に 1 路ずつ動かしても可です。

☆以上でとりあえず、③④⑤の「5 手、5 枚、9 マス」を正解とします。

七郎一 作図問題は考え出すとキリがないので、使用駒 5 枚に達したところで一応の区切りとしました。私が使ったのは「王手をした駒が動く」という手段だったのですが、「王手駒と合駒の間に別の駒を挟む」の方が手順としては面白い物ができそうです。

☆確かに②～⑤はすべて「王手をした駒による駒取り」(②は金取り、③～⑤は飛取り)が含まれています。

七郎氏のおっしゃるもう一つの路線は、①のように「駒取りなし」で表現できるぶんスマートですね。実はこの路線の作品も、もう一つありました。①より初形面積が広いのですが、紹介しておきます。

⑥ 赤土陽一 (改良図)

										一
										二
										三
										四
								王		五
					飛	と				六
								王		七
				飛		歩				八
										九

持駒 なし

47 飛 37 金 27 と 同金 16 飛 まで

☆原図は 36 飛→46 飛で、36 には受方歩があり、2 手目は歩の移動合だったのですが、初手 16 と以下の余詰が成立していました。そこで、36 歩を取り、2 手目を金合に変えたのが、この改良図です。48 飛は 46 に置く方が形は好いかもかもしれませんが、とりあえず。

本図は①を横にしたような構成です。面積は①より大きいですが、①と同じく 6 枚です。なお全体を 1 段もしくは 2 段上げるのも可です。

☆というわけで、「駒取りなし」であれば、①の「5 手、6 枚、6 マス」が最小?

☆一応の結論が出た所でおしまいとしたかったのですが、思わぬ手抜かりが発覚。

七郎一 この課題は最小手数が 5 手以下と分かっってしまうので、「手数最小」より「使用駒数最小」を優先した方が良かったかもしれません。

☆受方は「合駒して、それを動かす」の 2 手が必要なので、攻方 3 手と合わせて 5 手が理論的に最小と考えていたのですが…。

七郎一 題意にはそぐわないかもしれませんが、攻方の合駒でも良ければ 3 手でも可能です。

もず一 攻方の合駒でもよければ、「3 手、5 枚、10 マス」の図が最小だと思います。

☆「攻方の」合駒は想定外でした。これは発案者の太郎氏もうっかりしていたかも。もちろん責任は出題者の私にあります。「受方の」と明記しておくべきでした。

お二人が指摘された図は、ほぼ同じでした。参考図として掲げておきます。なお、赤土氏からも攻方合駒 3 手の作品が寄せられましたが、参考図よりも枚数が多いので省略させていただきます。ご了承ください。

【参考図】 神無七郎・もず
 14金(銀) 12玉 13金(銀上成) まで
 (もず作は、持駒：銀)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
							銀		二
							玉		三
									四
								王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 金

【総評】

七郎一作図問題の「解答」を見るのが楽しみです。

☆楽しんでいただけたでしょうか？

赤土一久しぶりに WFP をのぞいてみると、FOF が開催されていましてから、折角なので、解いて応募してみることにしました。

☆面白い短評および作図投稿、ありがとうございました。

もず一作図問題が面白かったため、久しぶりに考えました。

☆流石のご解答でした。

隅の老人B一何か忘れてる、思い出したら今日は「Fairy of the Forest」の締切日。慌てての解答です。

☆いつもご解答くださり、感謝しています。

占魚亭一1年ぶりの解答です。(解いてはいたのですが、さぼっていました)

☆時々でもよいので、よろしくお願いします。

【追記 2013/2/23】

☆攻方合駒3手の本図は、上記のお二人から送られてきて、結果稿では「ほぼ同じ」として扱ったのですが、後になってもず氏の意図に気づいたので、遅ればせながら補足しておきます。

☆持駒：銀は配置の限定性を考慮したものでしょう。すなわち、最終手銀「成」が成立するためにはこの位置でないといけません。一方、持駒：金だと、全体を下へ移動するのも可となります。

☆手順としてはほぼ同じながら、もず氏の細やかな配慮を見すごすわけにはいかないと思い、付言した次第です。

【追々記】

☆七郎氏から下記のご指摘が来ました。

七郎一もず氏は図の限定のために持駒銀にしたのですね。逆に私は平行移動ができるよう持駒金にしました。作図問題なので「これしかない」図を示すより「いくらでもいじれる」図を示す方が価値が高いと思ったからです。作図問題はあまり試みられていない分野なので、価値基準について云々はできませんが、私も一応両方の可能性は考えました。

☆もず氏の意図を掬い上げようとするなら、七郎氏の真意も確認しておくべきでした。七郎氏が安易に持駒金にしたとも思っていませんでしたが、それならなおさら確認が必要でした。公平さを欠いていたようで、反省しています。

Fairy of the Forest #35課題発表

- 2013年02月20日：課題発表：(協力詰) 初手と最終手が同じ(着手先と駒種)
- 2013年04月15日：投稿締切
- 2013年04月20日：出題
- 2013年05月15日：解答締切
- 2013年05月20日：結果発表

■ 課題発表

九州Gでこれと似たような課題を出した際、この課題はすでにTTTで出題済みとの指摘があったのですが、フェアリーならいいだろう、ということでこれにします。ちと安易かもしれませんが…。

多くの方々のご投稿をお待ちしています。

(投稿先)
 →酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

第3回フェアリー短編コンクール結果発表

☆今回は担当業務を最低限こなすのが精一杯で何かと手抜きになってしまいました。ごめんなさい。

03-01 変寝夢

PWC推理将棋 ?手

- ・最短手順を求めよ。どちらの玉を詰ませてもよい。

68王 34歩 78王 77角成 まで 4手

平均点2.00 4位

A1 B0 C1 誤解0 無解0 無評価1

作者—PWC推理最盛期にはの古典として何度も引用されることでしょう(´_`)

☆シンプルな内容ながら、PWC推理将棋の限界に挑んだ意欲作。

たくぼん—最短解が1つとは見事な発見ですね。

☆推理将棋で最も早く活用できる攻駒は角ですので、詰ます側には(1)歩を突いて角道を開ける、(2)角を成る、の2手が必要。ただ流石に初手から76歩、XX●、33角成迄の3手で詰ます順はありませんので、最低でも4手必要。

☆そこで先手が68王～78王と2枱寄るのが何気ないようで絶好手。後手が34歩～77角成と飛び込んできたときに、77同王、同角、同桂のいずれの応手も王手回避にならず、無効です。神無七郎—焦点への駒成一発。次作への誘い水でしょうか。3手目58金や58飛ではダメなことに注意、ですね。

☆3手目が他の手だと、77角成に同桂が成立しますね。

03-02 変寝夢

PWC推理将棋 5手

- ・2手目は玉の手
- ・互いの駒台に駒が置かれることはなかった

76歩 62玉 44角 同歩/43角

61角成/43金 まで 5手

平均点2.50 3位

A1 B1 C0 誤解0 無解0 無評価1

作者—他の指手ではどうしても駒台に駒が乗ってしまうのです。全て自前ソフトでは検討済

みですが、バグ及びプログラミング上のミスの可能性もあります。

☆オーソドックスに76歩～33角成などとする、途端に持駒に歩が入ってしまいますので、条件を満たすためには、先手が歩を取らずに角を敵陣に侵入させる工夫が必要です。

神無七郎—相手が自分の駒を動かしてくれる。これこそ本当の協力詰?

☆そこで問題を解決してくれる重要な手が、3手目の44角と4手目の44同歩/43角の応酬。4段目で角を途中下車させ、後手の歩で取って貰うことで、駒取りをせずに敵陣3段目に侵入できるわけですね。

たくぼん—PWC特有の手が入り、初心者にも考えやすい好作。詰四会で出題したら皆さん楽しそうに解図され、約5分で正解が入りました。

☆好評だったようで良かったですね!

03-03 たくぼん

安南協力詰 5手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1
										一								
		科								二								
							季			三								
										四								
		飛	香	王						五								
										六								
										七								
		角								八								
										九								

持駒 なし

64香 44玉 45飛 34玉 65飛 まで 5手

平均点1.50 6位

A0 B1 C1 誤解0 無解0 無評価1

作者—詰上りが読みやすいので分かりやすいと思います。(以下解答時)33金が目立ちすぎでしたか。

☆ばらばらに配置されている飛と角をどう連携されるかがポイント。64香～45飛で角を軸にしたバッテリーを作り、5手目に65飛!と開き王手をした手が両王手(78角+64香)になって気持ちの良い展開です。

神無七郎—33金の存在理由を考えると詰筋が見

え易いですが、初手の控え目な香、いったん角筋を止める構成など、ポイントは押さえた作だと思います。

☆詰上りを見ると、33金があるために34玉が43へ逃げる事が出来ません。

変寝夢一2～4手目に緊張感が感じられないのが残念。

☆尚、初手で香を2枳以上動かすと、最終手が王手にならないので不詰です。

03-04 たくぼん

非王手協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					科				四
							留		五
							王		六
							桂		七
							驥		八
								㊦	九

持駒 飛

35桂 15玉 23桂成 14玉 13飛 まで 5手

平均点2.00 4位

A0 B2 C0 誤解0 無解0 無評価1

☆持駒に飛があるのでまずどこかに打ってみて…などと考えていると永久に解けません！

作者一飛を最後に使うのが心理の裏をかいたでしょうか？ 受方の駒打を読んでもらえれば本望です。(以下解答時) 詰上りが見えたら早く解けそう。

☆攻方は一目散に成桂を作り、受方も玉を14へ逃げ込んでみると、意外と簡単に詰んでしまいます。

☆初手35桂も大切な一手で、代わりに15に跳ねると、2手目に15同玉と桂を消去するわけにもいきませんし、かといって35玉では退路が広くて玉が詰む形ではなくなります。一見単純なようで、よく観察すると非王手協力詰のコツが見えて来る作品です。

神無七郎一初手飛打の紛れを読まされました。非王手系はこういう成駒を作る筋が意外と

早くて、よく余詰んでしまいます。

☆非王手協力詰検討プログラムの作者さんらしいコメントですね。一方、素早く急所を見抜いたのが変寝夢さん。卓見！

変寝夢一たまたま桂を跳ねたら詰んでいた。初手飛打はだいたい非限定になるので捨てて正解でした

03-05 神無太郎

背面協力自玉スタイルメイト 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
					王				五
									六
									七
									八
				王					九

持駒 飛2桂香

56香 46玉 58桂 56玉

46飛 47桂 66飛 67桂打 まで 8手

平均点3.00 1位！

A2 B0 C0 誤解0 無解1 無評価0

☆本作品はSTMですので、持駒4枚のうちどれを玉方を取らせ、どの駒を盤上で動けなくするかが考え所。

変寝夢一いやー全部打ちなのに……。2五飛、2六角、8五飛、8六角に絞ったのがいかんかったか。(無解)

☆確かにその案なら2枚の飛は片付くのですが、桂香を使う場所がありません。

神無七郎一持駒の桂が何とも邪魔ですが、初手桂から読むと失敗。2手目に単に逃げる手が見えず、そのせいで香も打ちにくかったです。最終形はお好み焼きのコテ？

☆香はいずれ56で取らせるのですが、一旦玉が46(66)へよろけて、58桂を打たせるのが肝心。46飛～66飛で58桂の行く手を塞いでしまい、更に背面ではお馴染みの手筋・背面桂(47桂～67桂)で2枚飛を封じ込めます。こうすれば、飛を動かすと桂が59王への王手になりますし、かといって現状では王

の利き筋には（飛の性能を持った）桂が利いているので、攻方には指す手がありません。たくぼん一飛打尻桂は予想通り、序の4手が背面らしくないためちょっと考えた。
 ☆双裸玉から前半の意外性のある手順を引き出し、正解者お二方ともA評価！

03-06 橋圭伍

キルケ協力自玉詰 8手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
		歩		王						五
										六
				歩						七
	王			歩						八
		桂	歩							九

持駒 飛角

38角 75玉 78飛 79馬/77歩
 76歩 86玉 88飛 同馬/28飛 まで 8手

平均点3.00 1位！

A2 B0 C0 誤解0 無解1 無評価0

作者一ルールは相変わらずのcirce協力自玉詰です。10手台がこのルールで一番作りやすいので8手は若干苦戦しました。

☆本局はおそらく前半4手が見えるか否かが解図の分かれ目でしょう。

変寝夢一見ただけでほぼ終了です。詰め上がり予想は22角と飛車の両王手ですが、どうかな？（無解）

☆キルケ協力自玉詰なので、攻方が駒取りを行う事で受方の大駒を22や82に復元させて攻方王に睨みを利かせ、返し技で一気に詰ますという展開は当然考えられますが、今回は攻方王が98という、角筋からも飛の利き筋からもそれた位置に居ますし、85歩のような邪魔駒もありますので現実的ではありません。

神無七郎一38角は筋だが後が続かない…と思っていたら、あまり役に立たなそうな79歩を活用する手がありました。縦に使う「魔女返し」は珍しいパターンだと思います。

☆そこで初手から38角、75玉、78飛に、4手目

78同馬/28飛ではなく79馬/77歩とするのが工夫の一手で、次に76歩と復元したばかりの歩を突き出せるのが大きいというわけです。
 ☆このように、復元する駒が王手している駒の利きを遮る事で王手回避する手筋が「魔女返し」で、キルケ特有の高級手筋です。本作品もA2つで3点満点でした。

たくぼん一捻くれものは79歩の配置を見て79馬/77歩の入る手順を考える。しかし38角は見事な一手。

☆たくぼんさんはすぐに見抜かれたようですね。初手38角の意味付けは勿論、詰上り局面から28飛で88馬を取り返せないようにするためです。

○チャットルーム

変寝夢一明けましておめでとうございます。思ったより参加が少なかったようですね。お題が自由だと却って作りにくいですけどね。

☆今回は開催告知する直前に慌てて要項を作ったものでお題を練っている暇がなく…。ただ今後も担当を引き受けてもそういうパターンが多くなってしまいかも知れません。

神無七郎一締切はまだ先ですが、年が明けると何かとやることがありそうなので、今のうちに解答を出しておきます。今回のお気に入りには03-05。

☆七郎さんは今回唯一の2012年内解答でした。たくぼん一自作を除きオールA。甘すぎではなく今回はしっかりと狙いを持った好作が多かったです。

☆この調子だと次回があるかどうかかわかりませんが、またいつか（できれば盛大に）開催出来ると良いですね。

○解答成績（総解答者3名）

【全題正解】神無七郎 たくぼん

【4題】変寝夢

推理将棋第6 2回出題解説

担当：DD++

出題：平成 24 年 12 月 4 日
 解答締切：平成 25 年 1 月 20 日

今回は初級が2つあったわけですが、NAOさん作も渡辺さん作も「簡単だった」という声の中に「難しかった」という声がちらほら。やはり推理将棋の難易度は解く人によるんだなあ、というのを実感した今月の出題でした。

6 2-1 上級 チャンプさん作 一年の締めくくり 14 手

少年A「指し掛けだった将棋を再開したって聞いたけど、どんな将棋だったのか教えてよ。」
 少年B「大晦日に指した将棋のこと？王手が3回あって14手で詰ませて勝っただけだよ。」

少年A「それだけでは何も分からないよ。」
 少年B「まあそうだろうね、僕（後手）は4筋の手しか指さなかったよ。」
 「それと相手（先手）は5筋の手があったね。」

少年A「王手が3回あったんだよね？それを教えてよ。」
 少年B「そう言うと思って今日はちゃんとメモしてきたよ。」

少年A「そうこなくっちゃ。」
 少年B「飛成りの王手があった」
 「飛打ちの王手があった」
 「竜を動かしての王手があった」

少年A「これは全て君が指した王手なの？」
 少年B「それは教えられないね。ただ終局時、僕の持ち駒は無かったよ。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 14 手で詰んだ
- ・ 後手の着手は4筋のみ、先手は5筋への着手

があった

- ・ 終局時、後手の持ち駒は無かった
- ・ 王手は3回で、その内容は以下の通り
 飛を成っての王手
 飛を打っての王手
 竜を動かしての王手

※指し掛け局面から14手ではなく、指し掛け前とあわせて14手です。また、各条件は指し掛け前の手順にも適用されます。解答は指し掛け前も含め全ての手順をお答えください。

出題のことば (担当 DD++)

なぜこれが今年の年の瀬をテーマにした作品なのか、がわかるとヒントになるかも。

追加ヒント：

条件上取らざるを得ない歩と飛（龍）の2枚で詰めましょう。玉位置をよく考えて。
 12手目に打った飛をトドメで歩頭に成り返る、ということは玉は中段に出たほうがよさそうですね。

推理将棋 6 2-1 解答

- ▲ 7 六歩 ▽ 4 四歩 ▲ 同 角 ▽ 4 二飛
- ▲ 6 六角 ▽ 4 七飛成 ▲ 4 八飛 ▽ 同 龍
- ▲ 同 玉 ▽ 4 四歩 ▲ 4 七玉 ▽ 4 八飛
- ▲ 5 六玉 ▽ 4 五飛成 まで 14 手

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	
二								角		
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	
四						歩				
五						龍				
六			歩	角	王					
七	歩	歩		歩	歩		歩	歩	歩	
八										
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 飛歩

初っ端から今月の最難問です。後手が4筋のみなので、42飛と振って4筋突破し、これと取った駒で攻めるのは明らかですが、しかし先手の自由度がかなり高いので一筋縄にはいきません。

序は「76歩、44歩、同角、42飛、角移動、47飛(成?)」以外に選択肢はないでしょう。さて、ここから後手の残る4手の内容を考えます。まず、取った歩は条件上どこかへ打たなければいけません。そして飛成の王手と龍の王手も先手は無理でしょうから後手が消化するしかなさそう。残り1手ですが、飛打ちの王手を先手が行うにしてもトドメの王手のために後手は飛を打ち直すしかないことは明らか。つまり後手の残る4手は「歩打ち」「飛成で王手(飛を取る?)」「龍で王手(飛を取る?)」「飛打ち(王手?)」。

さてそうすると7手目48飛に8手目同龍、9手目同玉か金か銀、10手目と12手目で飛歩を打って14手目飛成、という手順が見えてきますね。つまり詰み形は歩頭に飛成か飛成で単騎詰め。しかし単騎詰めだとすると歩を打つ場所が定まりません。検討の時には省くことができますが解答時には読み飛ばしできますね。

読み飛ばし出来るといえばもう1つ。歩頭の飛成が先手陣内4筋だとすると、5手目にどこに角を引くかが定まらないのです。これが限定するとなると、玉が中段に出て角が逃げ道を塞ぐのに使われるような形しかありません。すなわち66角56玉もしくは26角36玉を44歩45飛成で詰める形。飛打ちが王手になるように、また先手が5筋に着手するように、と考えるとただ1つ作意順だけが条件をみたすことがわかります。

ところでこれが年の瀬の将棋である理由ですが、「2012年の年賀推理」「指し掛けの将棋」といえばちょうど1年前に出題された51-1。あれは7手指し掛けの問題でしたが、手順がこの問題の最初の7手と同じなのです。実はこの将棋は「2012年元日に途中になっていた指し初めを、年を越す前に終局まで指して指し納めとした」ということなのでした。ここまで見抜いた方は残念ながら0名(作者除く)でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

チャンプ(作者) 「数年前に創作した手順が、偶然24年1月出題の51-1番作と途中まで同手順だったので、指し掛け局(元旦)～再開局(大晦日)の流れになるように、DD++さんに相当無理を言って辰年最後の問題限定として投稿し、半ば強引に採用して頂きました(笑)ただ、数年経った今も△44歩の衝撃が忘れられないのは事実です。」

■コンセプトを読んだ瞬間、これは無理してでもやるしかないと思いました。

斧間徳子 「44歩以下の収束が爽快。問題よりも、なぜ今年の年の瀬がテーマなのかの方が難しく、未だわかりません。」

■1年前の出題の初級、ですからねえ。

NAO 「44歩とは巧い緩め方がありましたね。48歩や46歩を打つ手は金を動かす手が必要で14手は無理。右金をどう動かすか散々考えさせられました。」

■5手目限定からの裏読みがないとかなり難しい問題ですよ。私も採用前検討でかなり苦労しました。

橘圭伍 「8手目迄の展開がほぼ固定なので詰上りが問題。44歩を打ち直す所が最大の山場で絶妙手」

■44歩だけ見るといきなりわけのわからないところに打ったようにしか見えません。

占魚亭 「76歩44歩同角に思い至るのに1ヶ月。真っ先に浮かばなければならぬのに何をやってたんだらう……。」

ど直球だとなぜか逆に見えなくなるというのは推理将棋あるあるの1つです。

はらたっと「44歩と42飛が手順前後しないようにするためには本手順しかないはずが発見まで時間がかかりました！」

■推理将棋あるあるにハマった方がもう1人。

平井康雄 「冷静に考えれば、後手4筋だけの着手で序盤に手順前後の発生しない手順はこれしかないみたいです。45歩でなく44歩とするのが、とぼけた味で気付きにくい。ただ、『今年の年の瀬をテーマ』というのがわかりませんでした。」

■深読みすると42金41玉(逆王手による条件消化の布石)からというのも可能性としてあり

ますが、こんなの考えるのは私だけですかね。

たくぼん 「5筋の条件を58王と読んで失敗しました。44歩が味わいのある良い手」

■確かに5筋条件に58王は定石ですが、この問題は見事にそこを外してきました。

渡辺「とりあえず難しそうなのでパスして最後に回す。76歩、44歩、同角、42飛、?角、47飛成、48飛、同龍、同玉、を決め打ちするも仲々5筋が入らず…。慌てて5筋を指そうとしないのと、4筋を軸に左右反転すれば良いという至極単純なことに気付いて解決。」

■5手目と終盤が4筋対称でどちらも成立するのは、はたして美しいのか残念なのか。

テイムガンバ「なぜこれが昨年の年の瀬をテーマにした作品なのか、解いた今でもわかりません。」

■テイムガンバさんも正解されている昨年の問題がポイントでした。

S.Kimura 「5手目に44の角をどこに動かすのかがなかなか分かりませんでした。玉が6段目まで行くとはいませんでした。昨年は、龍で始まって龍で終わった年だった、ということでしょうか。」

■「龍で始まって」までたどり着いたのに、惜しい。

鈴木康夫「竜を動かす王手がとどめと思って悩みました。」

■直感的にはそっちが本筋。しかし龍が強すぎて逆にうまく詰められないのです。

やまかん「これはパックマンからヒントを得たのですかね? ^^ 序盤とても手が限定されるような感じじゃなかったので諦めるところでした。試しに角を使ってみたら運良く閃きました。」

■パックマン戦法は51-1の時にも話題になりましたね。

はなさかしろう「初日の出あるいは一陽来復でしようか。好形の詰め上がりかつ今回の最難問でした。裏推理を信じれば序はこうなるところですが、9手目同金以下後手金余りの詰みが目くらましになり、先手5筋条件や会話文にも惑わされてしまい大苦戦。龍をあっさり取って玉を中段に出る構想がなかなか思いつけませんでした。控えて打つ44歩から飛車の引き成りが絶妙で解く楽しみを堪能しました。」

■攻め方をわざと弱める48龍はけっこう自信がないと指せない1手ですよ。そして手順が確かに初日の出っぽい……。

正解：16名

S.Kimura さん 斧間徳子さん 香箱さん
鈴木康夫さん 占魚亭さん たくぼんさん
橘圭伍さん チャンプさん テイムガンバさん
NAOさん はなさかしろうさん はらた
ととさん 平井康雄さん 妙高仙人さん やま
かんさん 渡辺さん

6 2-2 中級 橘圭伍さん作 良いお年を 11手

謹「今日の新春対局、11角迄11手、11箇所着手だったね」

賀「成る手はなかったね」

新「先手が同じ筋に続けて着手するのはなかったね」

年「2手目に42に着手してたね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11箇所の着手で11角迄11手で詰んだ
- ・成る手はなかった
- ・先手が同じ筋に連続で着手する事はなかった
- ・2手目は42の着手

----- 出題のことば (担当 DD++)

11角で詰む形とはどんな形でしょうか。

追加ヒント：

11角と打って詰められそうなのは33玉か44

玉。まわりを塞ぎやすいのはどっち？

24 地点を塞ぐには▲25 歩。手番通りに考えるよりも、先に 11 手の内容を全て明かすと楽です。

推理将棋 6 2-2 解答 担当 DD++
 ▲2 六歩 △4 二玉 ▲7 六歩 △3 四歩
 ▲2 二角不成 △3 二銀 ▲3 一角不成 △3 三玉 ▲2 五歩 △1 二香 ▲1 一角 まで 11 手

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	馬	香		香	角	科	角	
二		馬					馬		皇	
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	王	歩	歩	
四							歩			
五								歩		
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 なし

11 角まで。記譜上、という注意書きはしませんでした。成る手なしですし 11 角不成までは開き王手以外ありえない（そしてそれは 11 手では明らかに足りない）ので、11 角は打つしかありません。さて玉位置はどこでしょう。55 以遠までいくのは考えにくく、また 22 玉の場合は 11 同玉を防ぐ手段に乏しいため、実質 33 玉か 44 玉の合い効かず 2 択です。それぞれどんな内容の 11 手になるか考えてみましょう。

まず 44 玉の場合。後手に△34 歩△42 玉△33 玉△44 玉は必須でしょう。先手も▲76 歩▲22 角とこの角を一度どかす▲13 角または▲31 角が必要。そしてトドメの▲11 角と、打ち場所確保の△12 香。残り先手が 2 手で塞がなければならない場所が 45 と 54、さらに 21 の桂を処理する必要があり、角の移動位置により 35 を塞ぐか 31 銀を処理するか。この形は 36 角や 63 馬が用意できるならそこそこの筋なのですが、筋違い角が望めないこの問題にはどうやら適さないようです。

では 33 玉の場合は。後手に△34 歩△42 玉△33 玉が必須、先手も▲76 歩▲22 角とこの角を

一度どかす▲31 角が必要。そしてトドメの▲11 角と、打ち場所確保の△12 香。残り先手 2 手と後手 1 手、塞ぐ場所は 24 と 32 の 2 箇所。これならなんとかなりそうな気がしますね。

しかしぱっと見て塞ぎにくいのが 32 の方。後手が金や飛を置いては 22 移動合が残ってしまいますし、先手銀打ちはスペースがありません。△24 歩▲23 銀は△23 玉を許してしまうし、と一通り考えたところで、この銀がもともとどこにあったかを思い出せばしめたもの。▲31 角で先手が銀を奪うのではなく、とられる前に△32 銀と後手にこの銀を活用してもらえばいいわけです。となるともちろん 24 を塞ぐ手段は▲26 歩から▲25 歩となります。

先手に 2 筋の手が 3 回あるのでこれを初手 5 手目 9 手目に、また 42 玉が 2 手目になるように手順を並べ替えば正解となります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

橘圭伍（作者） 「よい→いい にした方が若干良かったと反省。1 に拘るなら妥協すべきでなかったです」

■なるほど改良されますが、しかし誰も気づけなさそう。

斧間徳子 「後からわかる初手 26 歩。」

■この条件で手番通りに解こうとして 26 歩から突く人はまずいないでしょうね。

チャンプ 「11 角までの形は考えやすく解答者に優しい作品ですね。」

■5 手目限定からの裏読みがないとかなり難しい問題ですよね。私も採用前検討でかなり苦勞しました。

NAO 「2 筋の手 3 回も導かれるままに解けるイイ手順。」

■合い効かずに打って詰ませる割にはシブい手順です。

占魚亭 「76 歩 42 玉 33 角不成の順を考えていました。」

■33 玉と上がれなくなっちゃう。

はらたっと「同じ筋に連続着手なしが考えづらい条件でした。」

■逆に言うところなのが解答の主軸になるわけがないので、最後までほっといていい条件ともいえますね。

平井康雄「この詰上がりは想像つきやすい。初手 26 歩を限定させる条件の付け方がうまい。」

■手順前後が多数出る時の限定方法はかなり作者ごとの個性が出るところだったり。

たくぼん「これが 1 番に解けました。元旦に解くべきだったかな (笑)」

前から順にいったってチャンプさん作を一度諦めてこの問題が最初に、という方はかなり多そう。

渡辺「詰上がりが想像しやすく、プルーフゲームのような解き味でした。」

■おそらく橘さんもそれを意識して作っているのでしょう。

S.Kimura「角単騎で詰ませることを考えて、ようやく答えが見えました。」

■そもそも角単騎は場所を選ばなくても最短 11 手なので、こんな位置で 11 手はさすがに。

鈴木康夫「詰上がりはほとんど自明ですが『先手が同じ筋に連続で着手する事はなかった』は上手い条件です。」

■長編作家ゆえに、前半と後半の手順前後をまとめてどうにかする手段は豊富にお持ちなのでしょうね。

諏訪冬葉「最終手から詰み形を想定したら意外と簡単でした。」

■11 角って大駒のくせに非常に利きが狭いですから。

やまかん「ヒントがないと解けなかったかもし

れない。」

■合い効かずの独特の感触に慣れていないと最終形が見えにくい、のでしょうか。

はなさかしろう「元日ですね。お屠蘇気分です。まずは軽く心地よく。玉方の形が想像しやすく解きやすい問題でした。」

■はい、慣れている方にはさっくりと。

正解：17名

S.Kimura さん 斧間徳子さん 香箱さん
鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん
たくぼんさん 橘圭伍さん チャンプさん
テイエムガンバさん NAOさん はなさかし
ろうさん はらたっとさん 平井康雄さん
妙高仙人さん やまかんさん 渡辺さん

6 2-3 初級 NAOさん作

2013 年の指し初めは？ 13 手

「さっきの将棋、どうだった」
「駒を着手した地点が 13 カ所あって、13 歩不成まで 13 手の詰みで勝ったよ」
「へえ、それは 2013 年の新年からめでたいね」
「一つの駒を 4 回続けて動かす手もあったよ」

さて、指し初めのめでたい一局とはどんな将棋だったのでしょうか？
手順を推理してみましよう。

(条件)

- ・着手点が 13 カ所あり、13 歩不成まで 13 手で詰んだ
- ・一つの駒を 4 回続けて動かした

出題のことば (担当 DD++)

8 手はほとんど明らか。事実上残り 5 手の問題です。

追加ヒント：

21 桂と 22 角を動かすのに「後手が動かす」だけでなく「先手が取る」方法もあるのを忘れなく。

4 連続着手は先手歩ではなく後手玉。22 角は

不成で進んで 31 で初めて成るのがポイントです。

推理将棋 6 2-3 解答 担当 DD++

- ▲ 7 六歩 ▼ 3 四歩 ▲ 2 二角不成 ▼ 3 三桂
- ▲ 1 六歩 ▼ 4 二玉 ▲ 1 五歩 ▼ 3 二玉
- ▲ 1 四歩 ▼ 2 一玉 ▲ 3 一角成 ▼ 1 二玉
- ▲ 1 三歩不成 まで 13 手。

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	龍	空		空	馬		皇	
二		龍							王	
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	科	歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩		
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 角銀歩

13 手、とはいえ非常に簡単な問題です。なぜなら、13 歩不成までということは後手が 4 手かけて 12 玉まで移動することは必然で、となると 1 筋歩交換をする余裕もないので先手が端歩突きに 4 手かけることも明らかだからです。さて、残る 5 手で何をやればいいのでしょうか。

まず 13 歩不成を取れないように、22 角と 21 桂をどかす（後手が動かすか先手が取る）必要があります。これは先手が両方行くと玉の通り道と重なって着手が 12 箇所になってしまうため失敗。22 角を取らずに 21 桂を取るの難しいので、21 桂の方を後手が動かすのでしょうか。当然 13 桂と跳ねるわけにはいかないので後手の残る 2 手のうち 1 つは△33 桂。同時に 33 歩を先手がかじれなくなったので後手のあと 1 手は△34 歩ですね。

先手の残りは明らかに「76 歩と突く」「22 角を取る」「21 と 22 の逃げ道を塞ぐ (=31 に馬を作る)」なので、これらを条件を満たすように並べ替えれば正解となります。22 でうっかり角を成らないようにすることと 4 連続着手を先手歩だと思い込まないことの 2 つに注意。

それではみなさんの短評をどうぞ。

NAO (作者) 「指し初めは一本道の易問で気持ちよく！」

■ と思いきや迷った方は結構多かったようで。

斧間徳子 「22 角不成のままじっと待機する手順が見えにくく、私にとっては初級の問題ではなかったです。」

■ 確かにあまり見かけない手ではありますね。

チャンプ 「やるべきことを一つずつこなして行けば必然的に正解に辿り着けますね。一つの駒を 4 回連続着手と見て、先手の歩ではなく絶対に後手玉のことだと決め打たせて頂きました (笑)」

■ 私も最初に解いた時は後手玉に決め打ちしました。

橘圭伍 「13 でこの条件は難しいと思いましたが 13 歩生が有りましたか」

■ 13 香 (打ち) までか 13 香生までができないかな、と思ったまま放置した私。歩生と聞いて膝を打ちました。

占魚亭 「歩が 4 回連続で動くと思いきや玉だったとは。」

■ この問題唯一のひっかけらしいひっかけ。

はらたっと 「歩生での詰め上がりが新鮮でした」

■ 手数が多少長くなると実現出来ませんからねえ。

平井康雄 「4 回連続は当然 17 歩だと思い込んでしまったので大苦戦。完全にウラをかかれました。」

■ 誤った思い込みは怖いものです。

しで玉が 12 に行けるとは驚きました。」

■ 手数を限らなければ地点重複なしで 81 マス

全部いけるんじゃないですかね？ ちゃんと確認はしていませんが。

諏訪冬葉「最終手の成立のためには角と桂を排除しないといけないが玉移動に4手かかるので片方は取る。あとは玉の経路を考えたら自然と解答に着きました。」

■見事な推理です。

やまかん「2013年に条件がぴったりですね！覚えやすい条件だったのでよい頭の体操になりました。」

■難易度だけ見るなら確実にこれがスターターでした。

はなさかしろう「13尽くしですね。13歩不成まで、13手でぴったり。4回続けるのは先手17の歩かと思いきや、後手玉とは意外でした。」

ベテランですら引かかる魔の4連続条件。

正解：17名

S.Kimuraさん 斧間徳子さん 香箱さん
 鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん
 たくぼんさん 橘圭伍さん チャンプさん
 テイエムガンバさん NAOさん はなさかしろうさん
 はらたつとさん 平井康雄さん
 妙高仙人さん やまかんさん 渡辺さん

6 2-4 初級 渡辺さん作

14の駒は？ 10手

「さっきの14に歩以外の着手をしていた将棋はどうなった？」

「10手目25の着手で詰んだよ」

「変な将棋だったね。5筋の着手も変だったし、それより前にあった3筋の着手も変だったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・10手目25の着手で詰んだ
- ・14に歩以外の着手があった
- ・5筋の着手より前に3筋の着手があった

出題のことば (担当 DD++)

ひねって考えると逆に苦戦するかも。

追加ヒント：

「14の駒は？」常識的に後手の手だとすれば、駒打ち以外で8手目までにそれが可能なのは5枚だけ。

こういう問題で5筋の着手を捻り出すには▲58玉が定石。すると玉は1筋に届かず、トドメには金がほしいところ。

推理将棋 6 2-4 解答 担当 DD++

▲4六歩 △3二金 ▲5八玉 △2四歩
 ▲4七玉 △2三金 ▲3六玉 △1四金
 ▲2六玉 △2五金 まで10手。

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金	玉		銀	桂	香	
二		飛						角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四								歩		
五								金		
六						歩		王		
七	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	
八		角						飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒なし

解くための手がかりはタイトルにあります。14への歩以外の着手、先手がやろうとするとかなりの手数がかかる上に詰みに全く関係がなく、まず考えから除外していいでしょう。もちろん最終手は25の手なのでこれも除外して、後手が8手目までに着手するとすれば以下のいずれか。

1. △14歩△15歩△14香
2. △84歩△85歩△84飛△14飛
3. △24歩△32金△23金△14金(もしくは銀)
4. △42玉▲33角△同玉△24玉△14玉(もしくは金)
5. △34歩△77or88角成(△??馬)△14駒打

ち

1と2は明らかに最終手25にまともな着手ができないのでハズレですね。4も25玉で王手はできませんし25金は同玉とされるのでハズレ。5については一見それっぽく見えますが、25角離し打ちまでだと玉方の準備がかなり必要で、25で隣接王手までだと作った馬と連携することができず、手が全然足りません。

よって本命は3。銀よりは金の方が当然玉頭を押さえやすいので25金までの詰みを目指しましょう。36歩と突いて玉を15または16へ進めれば簡単に詰みますが、しかし条件から5筋の手が必要。少しずつ46歩に58玉から26玉という形で詰ませてもらえば作意にたどりつきます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

渡辺（作者）「条件は5筋の着手より後に3筋の着手があるかどうかについては何も言っていないのですが、その辺を会話文で読みとって頂けると有難いです。」

■もっと極端に5筋→3筋→5筋→3筋と着手された場合すらも「5筋の着手より前に3筋の着手があった」は一応満たすんですよね。わかりにくいことこの上ないですが。

斧間徳子「2つの手順前後を同時に解消する『5筋の着手より前に3筋の着手があった』という条件がうまい。」

■上で述べたように5筋の手が2回あるような紛れを考える場合の解釈に解答者が迷う可能性があるのは難点ではあったり。

チャンプ「お年玉問題ってこれでしたかね？一番時間が掛かりましたが？（笑）」

■変に凝った詰め上がりの作品ばかり考えているからそうなるんです（笑）。というのは半分冗談ですが、初級に対し特殊な手順から考え始めるのが遠回りなのは事実。

NAO「14歩以外で詰ますには金しかない。」

■仮にトドメが25でないとしてもそれほど幅

はないですね。

橘圭伍「一番悩んだ作品。最後の条件から推測しようとした為にこの単純な展開が見えなかったです」

■深読みしすぎですってば。

占魚亭「25角までの透かし詰だと思っていたので大苦戦。」

■14角を25に進めて詰みだと先手が25に合駒を用意しないといけなくて大変。

はらたつ「玉対金の勝負でした。」

■もっとも単純な10手詰はこの系統だと思います。

平井康雄「これはさすがにノーヒントですぐにわかりました。」

■そう、素直にやればすぐの問題なんです。

たくぼん「分かりやすく楽しい作品。今年もこんな感じをお願いします」

■とコメントをいただいた翌月、その渡辺さんの作品がですね……。

テイエムガンバ「『先手が1四に駒を打つ』というのはさすがにないので、『後手が駒を取って1四に打つ』だろう、とは思っていたのですが、4一の金が動いて詰ませるとは……。」

■後手が14に駒を打っても結局角（馬）と全然連携できないよね、まで頭が回ればバッチリでした。

S.Kimura「14角、25金で詰ませることを考えていましたが、14の駒を25に動かせば良かったのですね。」

■角金とらせるのに先手が2手かけると玉が25金で王手のかかる位置まで動かせませんね。

鈴木康夫「ヒントを見ても自陣の金の出動に気付くのに苦労しました。」

■自陣の金銀は推理将棋で最も使われにくい駒ですから忘れがち。

諏訪冬葉 「素直にとあったので▲26玉に△25金/▲37玉に△25桂/▲58玉に△25角の3通りを考えたが、△14に歩以外が成立しない。ヒントを見るまで41金の出撃に全く気付きませんでした。」

■3通りの中に正解があったのにもったいない。

やまかん 「14には角を打つのとばかり思ってしまったので結構時間がかかりました。作者に負けた気分です。」

■14角を25に進めて王手するのも25に打つ駒の紐にするのも感覚に反してかなり大変なのです。

はなさかしろう 「金ですね。シンプルですが、角が無い飛ぶ手順ばかり見ているとかえって新鮮でした。」

■盲点、という表現がしっくりくる感じでしょうか。

正解：17名

S.Kimuraさん 斧間徳子さん 香箱さん
鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん
たくぼんさん 橘圭伍さん チャンプさん
テイエムガンバさん NAOさん はなさかしろうさん
はらたっとさん 平井康雄さん 妙高仙人さん
やまかんさん 渡辺さん

**6-2-5 上級 斧間徳子さん作
平成25年年賀推理将棋 13手**

「正月に指した将棋、わずか13手で25にいる相手玉を詰ましたんだって？」

「うん。今年は2013年で平成25年だよ。正月から縁起が良さそうだな。」

そういえば、1手目と3手目と13手目が同じ筋への着手だったのも、

2013年と語呂が合っていた・・・いや、これは考えすぎかな。

とにかく、駒を成る手が1回もなかったし、

不思議な将棋だったなあ」

「25で詰ましたってことは、とどめは3筋に金でも打ったのかい？」

「いや、3筋への着手は、相手の4手目と10手目だけだったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・13手で詰んだ
- ・後手玉は25で詰んだ
- ・1手目と3手目と13手目は同じ筋への着手だった
- ・3筋への着手は、4手目と10手目だけだった
- ・駒を成る手はなかった

出題のことば (担当 DD++)

半分まではすぐにわかりますが、残りの半分はよく考えて。

追加ヒント：

最大の問題は34地点をどう塞ぐか。駒打ちの方がクリアしやすそうですね。

駒打ちは1枚では足りません。銀で退路を絶ち、トドメに大駒をさてどこから打つ？

推理将棋6-2-5 解答 担当 DD++

▲9六歩 △4二玉 ▲9七角 △3二玉
▲5三角不成 △2四歩 ▲7一角不成 △2三玉
▲8二角不成 △3四玉 ▲2三銀 △2五玉 ▲9五飛 まで13手

詰上がり図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科		香		銀	科	皇		
二		角						角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	銀	歩	
四								歩		
五	飛							王		
六	歩									
七		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩

大きなヒントがあり後手の手はすぐに判明するにもかかわらず、そこからが難しいという珍しい問題です。

後手は6手で25まで玉を運ばなくてはならず、3筋は4手目と10手目しか指せないの、△42玉△32玉△24歩△23玉△34玉△25玉もしくは△42or52玉△32何か△44歩△43玉△34玉△25玉しかありません。両者の違いはほぼ24地点に後手歩がいるかいないかという違いだけです。

さて問題は先手です。条件は3筋に着手しないことと、初手3手目13手目を同じ筋にすること、そして成らないこと。しかしこれが実に困難。例えば▲16歩▲15歩▲76歩▲44角▲26角▲何か▲17桂。1手余っていますが34地点の逃げ道が塞ぎようがありません。例えば▲16歩▲15歩▲14歩▲18飛▲何か▲何か▲15飛。今度は2手も余っていますが、やはり34地点が埋められません。普段ならなんでもない34地点がこの条件だと著しい難所となるのです。

では考え方を変えましょう。詰みを一旦視野から外して、34地点に先手駒を利かせることだけ考えてみましょう。自陣から駒を運ぶなら45金か45銀まで最低5手。駒打ちだとすると後手陣の歩を破るまでに3手プラス飛か銀を取って打ってでやはり最低5手。なんと34を封じるだけに4手ですら足りず、5手もかかるのです。

そう、5手。この数字がこの問題を解く鍵でした。11手目までにこの5手がかかる以上、初手が3手目に4～7or9筋の歩を突くか4～7筋に金銀を上がるかする必要があります。つまり条件から、トドメも4～7or9筋。飛も角がなければ最終手で詰みどころか王手すらかかりませんね。どうやら5手で34地点を塞ぎつつ、しかもあと2手で大駒を使えるような手順を考えなければならぬようです。

ここまで来ればあと一歩ですね。71銀を取りに行くついでに82飛を取る1手とそれを打つ1手を加えてちょうど7手。これがこの条件をクリアするために必要な着手内容でした。あとは並べ替えるだけ、と安心した所でようやくこの問題の狙いがお目見え。初手と3手目の着手筋を揃えなければならぬので96歩97角から入るわけですが、その結果生じるのが最終手95飛の最遠打の詰み！ これだけの解きごたえに

加えてこの鮮やかな狙いの魅せ方、素晴らしい作品でした。

それではみなさんの短評をどうぞ。

斧間徳子（作者） 「2013年と平成25年をテーマにして作ってみました。はるか遠くからの飛車打による合効かずの詰みが狙い。13と25を強調するためとはいえ、条件数が多いのがやや不満です。」

■しかし、「3筋は4手目だけ」とどちらにするかで迷った時に、条件のシンプルさを犠牲にしても解き味を優先した判断は間違いなく正解だっただろうと思います。

チャンプ 「玉が25で詰むのに3筋の手が4&10手目のみということで、後手の全指し手がほぼ丸裸になるので、何も悩むことなく一直線に解けました。しかし▲96歩～▲97角の立ち上がりから▲95飛の最遠打など見せ場は随所であり力作だと感じました。」

■この先手の順が一直線とは、すごい解答力。

NAO 「25玉を詰ますのにまさか9筋とは。裏をかかれました。」

■解いてびっくりの大仕掛け。

橘圭伍 「条件から想定した詰上りが的中した為に1分も掛からなかった作品。歩→角以外の開始なら悩ましかったかもしれないですね」

■歩角以外というと、79銀78角56歩13角生22角生として2枚角で攻めるとか？

占魚亭 「1・3・13手目が同じ筋への着手という条件から、すぐに予想がつかしました。」

■確かに、何か狙っているんだろうなという方向から考えると最遠打は魅力的。

はらたっと 「9筋のひらめき一発でした。95飛がカッコいい！」

推理将棋だと邪魔駒をどかさなければいけない都合があって、ここまで美しい最遠打はめった

に見られません。

平井康雄 「冷静に考えてみれば、初手と3手目を同筋で手順前後がない手順は、歩を2回伸ばすか、1・2・3・7・9筋しかあり得ないですね。最終手を5段目の飛とするなら、7筋か9筋しかあり得ないことになります。当初は7筋にばかり固執してうまくいきませんでした。9筋にしてみたら、見事に解決しました。」

■と思いきや48金49玉とかがありましてですね。まあ先手勝ちでそれを作意にしていたらおもち箱では出せないような難問になるのでしょうか。

たくぼん 「9筋とは思わなかったなあ。条件文で意識が右の筋にいつちゃったからなあ。参りました。」

■見事なミスディレクションですよ。私もバッチリひっかかりました。

渡辺 「推理がしやすい問題でした。後手は3筋の条件を考えると歩を突いて25に玉を運ぶのが精一杯。3筋条件から34歩は突けないので24歩を突く。これで後手は決定。とすれば詰形は23に銀か角で飛打までで、初手と3手目が同じ筋になりやすい9筋から考えると答があります。」

■条件に惑わされず、初手と3手目で9筋を連想できると確かに早い。

S.Kimura 「飛車か銀を取ることを考えていましたが、最後のヒントが出るまで、2枚も取るとは思いませんでした。」

■2枚も取るのはなんとなく手数をかけすぎという気がしてしまいます。

鈴木康夫 「詰パラに発表した拙作75玉型14手詰の詰上がりが参考になりました。」

■5段飛の詰みは中手数ではよくありますよね。最初に見つけたのは誰なんだろう？

諏訪冬葉 「『34を駒打ちで塞ぐ』というヒントから23銀が浮かんだので他に使える駒を

探したら飛車がありました。」

過剰に中身を見せ過ぎない、いいヒントだったでしょう？

やまかん 「解けたとき解後感がかなりよかったです。右側の2, 3筋方面の手を考えやすいから反対の9筋は盲点になりやすいですね。」

■魅せたいものが最後に明かされますからねえ。こういう問題を作れるようになりたいもの。

はなさかしろう 「飛車の横利き、合い利かずの詰みは第一感でしたが、自飛車が駄目ということで、玉方の飛車をどの手順で奪うかが問題。銀打ちから最遠の9筋飛打ちが気持ち良いです。25と13を織り込みつつ形良く詰め上げるすばらしい年賀推理将棋でした。」

■飛車の横利きが第一感だったのに、19香を紐に15飛の横利きで詰ませようと四苦八苦したセンスのない解答者、それが私です。

正解：17名

S.Kimura さん 斧間徳子さん 香箱さん
鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん
たくぼんさん 橘圭伍さん チャンプさん
テイエムガンバさん NAOさん はなさかし
ろうさん はらたっとさん 平井康雄さん
妙高仙人さん やまかんさん 渡辺さん

総評

チャンプ 「一年間、解答者として出題者として大変充実した時間を過ごさせて頂きありがとうございます。また出題の機会がありましたら、皆様を混乱の渦に巻き込みたいと思います(笑)その際は何卒お付き合いの程よろしくお願い致します。皆様にとって2013年が良き年でありますように。」

■チャンプさんは2013年大注目の作者の1人です。難問、奇問、易問、いろいろ投稿お待ちしておりますよ。

香箱 「久しぶりに解いてみました。第1問の44歩がいい感触です。」

■だそうですよ、チャンプさん。

妙高仙人「5問の条件が混線して、どれも難問になってしまいました。」

■たくさんの問題に同時に手を出すとありがちですね。

NAO「難問あり、易問ありの年賀詰め。やはり上級のチャンプさん作と斧間さん作の2題は難しく、最終ヒント待ちも覚悟しましたが、なんとか解けました。両題ともなんと素晴らしい手順。年始から解けてよかった。出題は今年もお手柔らかにお願いします。」

NAOさんがお年玉ヒントで解けないようだったらヒントのあり方を考えなおさなくてはいけないところでした。

橘圭伍「4が非常に難しかったのは解き方による差でしょうね。5314の順で時間掛かりましたが1で10分程度なのに4は1時間以上掛かりました(笑)」

■推理将棋の難易度は解く人によって感じ方が全く違う事例ですね。

はらたっと「上級2問題抱えて年越ししました。今年もよろしくお願いします。」

■年賀問題なのでむしろ年越してから……と思ったら片方は年末の問題でした。あらら。

平井康雄「今回、初級・中編はヒントなしで解けたのですが、上級2題は最終ヒントが出るまで全く手が出ませんでした。」

■数年前の出題と比べて、初級はより簡単に、上級はより手応えがあるように選題や配置をしているので、上級でのヒント待ちはあまり恥じることはないと思いますよ。

たくぼん「最近解図力に衰えが見えヒントだよりで解図していますが、今年もよろしくお願いします。」

■いえ、それは上級の難易度が以前より上がっ

ているせいだと思います。はい。

渡辺「最初の問題以外は考えやすかったです。」

年賀作品ですから、初中級は素直な問題が並ぶというものです。

やまかん「2ヶ月ぶりの推理将棋は錆びた頭にはたいへんでした。(ヒントを見ても)今回は62-1, 62-5には特に感心しました。とてもうまく出来てると思います。又来月もお願いします。楽しめました、ありがとうございました。」

■上級は共に年賀とは思えないほどの完成度でした。

はなさかしろう「年賀推理将棋、昨年11月に作ってみようと思ったものの構想すら思いつけず、出題を楽しみにしていました。さすがにすばらしい作品揃いで楽しかったです。」

■そういえば来年の年賀作品にはまだ10ヶ月くらいかけられますね、という前振り。

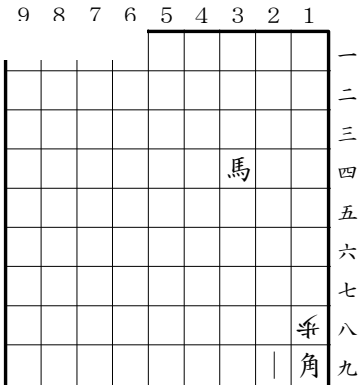
推理将棋第62回出題全解答者： 17名

S.Kimura さん 斧間徳子さん 香箱さん
鈴木康夫さん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん
たくぼんさん 橘圭伍さん チャンプさん
テイエムガンバさん NAOさん はなさかし
ろうさん はらたっとさん 平井康雄さん
妙高仙人さん やまかんさん 渡辺さん

WFP54 号のおばかな作品展解答発表に触発されてできた作の作意発表です。さて。

【第一番】小林看空さんに捧ぐ

香王ばか詰 0.5手



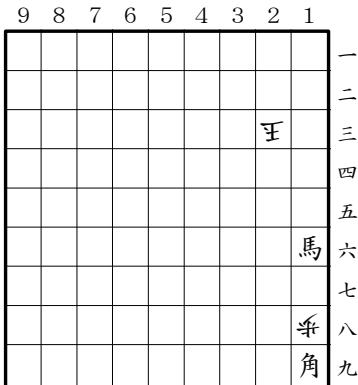
持駒 なし

29 | → 27 宝と戻した上で、16 馬 まで 0.5 手

小林看空さんの『着手を部分的に戻す』アイデアを借用した作。

起点とするのはこの 3 手詰。馬の位置が限定できていないのが残念だが。

香王ばか詰 3手

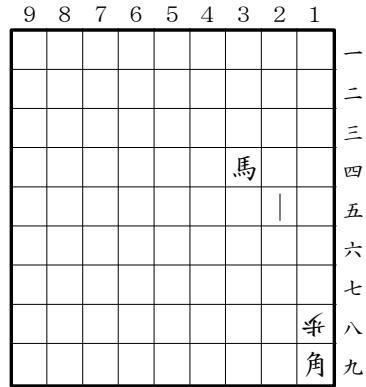


持駒 なし

初手 34 馬のあと 23 玉が裏返りながら 27 地点を目指している途中の 1/4 回ひねった状態の図がこれ。

残り 1.5 手。

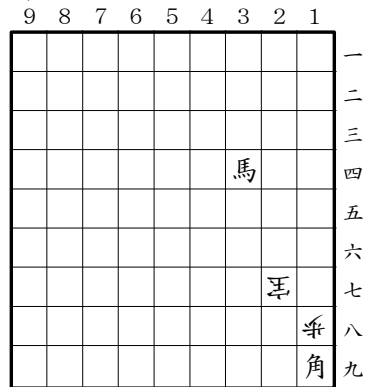
香王ばか詰 1.5手



持駒 なし

香玉が 27 に成り返ったところで残り 1 手。

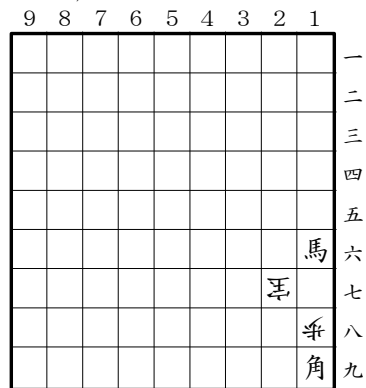
香王ばか詰 1手



持駒 なし

馬を 16 に戻して詰上り。

詰上り



持駒 なし

のはずが、1 手詰の局面でさらに 0.5 手分暴走してしまったのが出題図というわけ。0.5 手戻して 1 手で詰めるので、-0.5+1=0.5 手詰。

【第二番】若林さんに捧ぐ

複素平面盤詰 1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
								龍	五
							龍	銀	六
							王	王	七
									八
									九

持駒 なし

若林さんの『盤面を複素平面と見做す』アイデアを借用した作。

複素平面であるからには、何かしらの演算をほどこさなければならぬのだが、それをどう定義するのか。王手は「かける」ものなので、玉の利きに王手駒の利きを乗じて新たな利きにするのが自然な解釈だろう。両王手の場合はどうするのか。天竺ルールでの両王手の場合、玉は双方の駒の利きを「合わせ」持つことになるので、双方の駒の利きを「加える」のがこれまた自然な解釈だろう。

利き(a, b)と利き(c, d)の積は、 $(x, y) \Leftrightarrow x+yi$ (iは虚数単位) という対応関係を考えれば、 $(a+bi)*(c+di)=ac-bd+(ad+bc)i$ から、 $(ac-bd, ad+bc)$ となる、同様に利き(a, b)と利き(c, d)の和は、 $(a+c, b+d)$ となる。

で、例えば玉/王の利きは $\{(1, 1), (1, 0), (1, -1), (0, 1), (0, -1), (-1, 1), (-1, 0), (-1, -1)\}$ である。攻方桂の利きは、 $\{(1, -2), (-1, -2)\}$ である。

さて、ここまで準備できれば、あとは王手駒の利きによって玉の利きがどう変化するかをひたすら計算するのみである。

で、表計には Excel を使うと便利である。詳細説明は省略するが、図1の赤い枱(セル)に王手駒の王手の相対的な利きを入れると、王手された玉の相対的な利きが自動計算されて青い枱(セル)に表示されるようにできるのだ。なお、図1は、出題図から26龍としたときの玉の利きの計算例である。

図1 玉の利きの計算例 (26龍)

玉の利き		王手駒1の利き		王手駒2の利き		王手時の玉の利き	
a	b	c	d	e	f	$a*(c+e)$ $-b*(d+f)$	$a*(d+f)$ $+b*(c+e)$
1	1	-1	1	0	0	-2	0
1	0	-1	1	0	0	-1	1
1	-1	-1	1	0	0	0	2
0	1	-1	1	0	0	-1	-1
0	-1	-1	1	0	0	1	1
-1	1	-1	1	0	0	0	-2
-1	0	-1	1	0	0	1	-1
-1	-1	-1	1	0	0	2	0

さらに Excel ではこの玉の相対的な利きを図示(プロット)することもできる。

図2がその例で、(0, 0)に玉がある場合の玉の利きのある位置がプロットされている。

図2 玉の利きの表示例 (26龍)

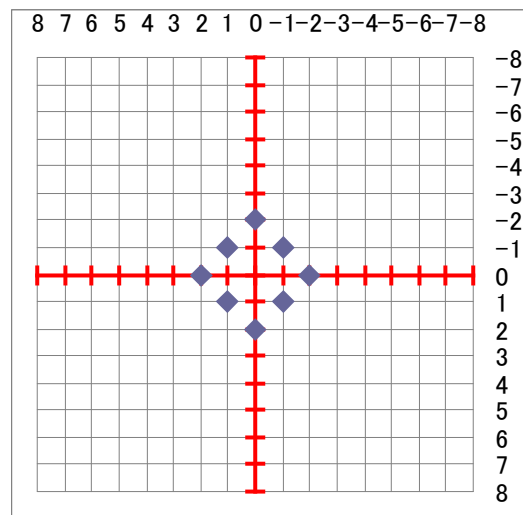
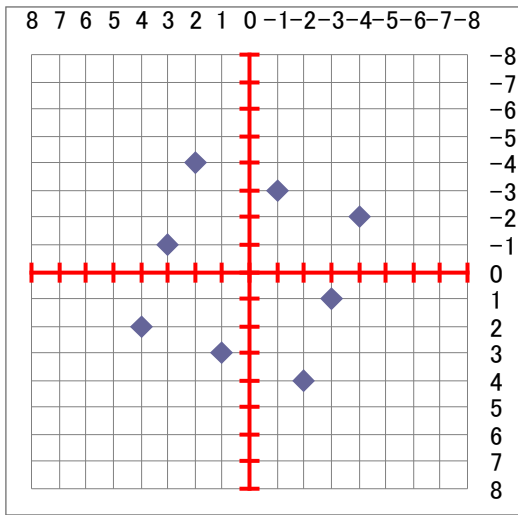


図3、図4は出題図から26銀と両王手したときの玉の利きの計算例と表示例である。

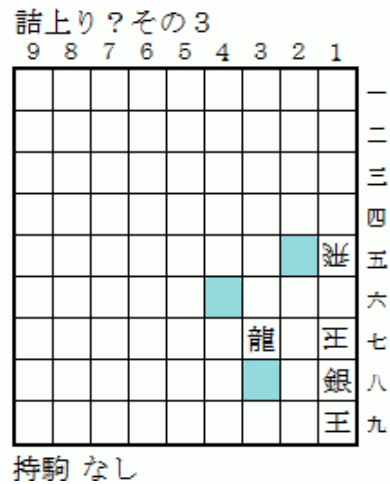
図3 玉の利きの計算例 (26銀)

玉の利き		王手駒1の利き		王手駒2の利き		王手時の玉の利き	
a	b	c	d	e	f	$a*(c+e)$ $-b*(d+f)$	$a*(d+f)$ $+b*(c+e)$
1	1	-2	0	-1	1	-4	-2
1	0	-2	0	-1	1	-3	1
1	-1	-2	0	-1	1	-2	4
0	1	-2	0	-1	1	-1	-3
0	-1	-2	0	-1	1	1	3
-1	1	-2	0	-1	1	2	-4
-1	0	-2	0	-1	1	3	-1
-1	-1	-2	0	-1	1	4	2

図 4 玉の利きの表示例 (26 銀)

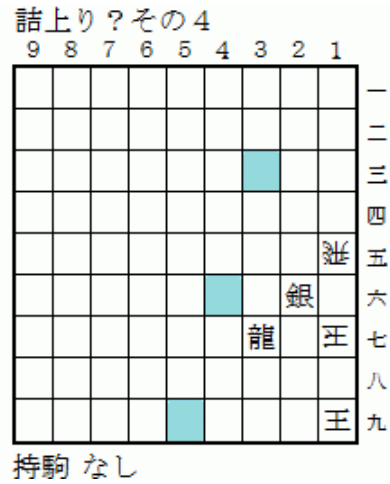
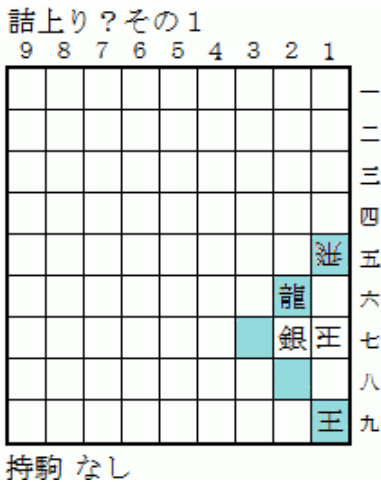


初手 18 銀の場合の 17 玉の利きは下図の通り。
龍と銀による両王手であるが、25 玉で逃れ。



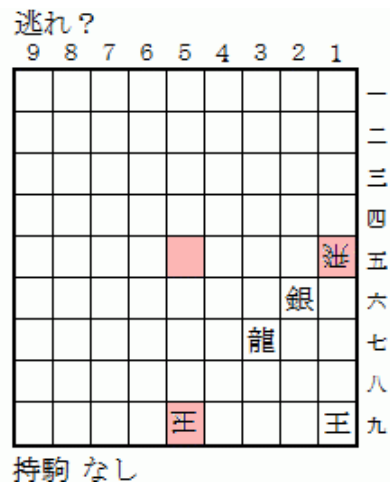
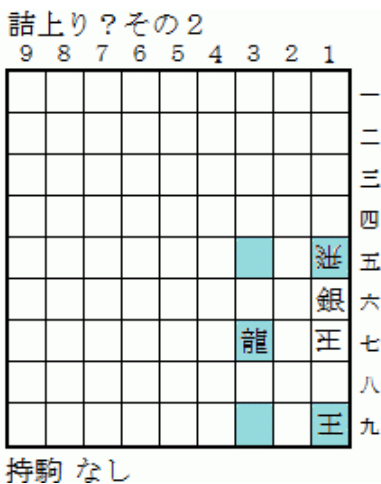
さて初手 26 龍の場合、17 玉の利きは下図の水色の枠に及ぶことになる。つまり逆王手がかかることになり NG。初手 28 龍の場合も同じ。

初手 26 銀の場合はこうなる。



初手 16 銀の場合の玉の利きは下図の通り。この場合も逆王手で NG。初手 36 銀、38 銀の場合も同様に NG。

一見、59 玉で逃れているようだが、その瞬間に、15 飛の利きが 19 王に及び、その結果 19 王の利きが 59 に届くので逃れていない。つまり 26 銀で詰なのである。



Fairy TopIX2012投票要項

Fairy TopIXとはウェブサイトで開催されたフェアリー詰将棋・推理将棋・ブルーフゲームを対象にお気に入り投票を行い、上位作に授賞するものです。Fairy TopIX2012は2012年にウェブサイトで開催された作品の中からお気に入り投票によって選ばれます。

【投票宛先】

WFP事務局(たくぼん)宛にメールにてお願いします。takuji@dokidoki.ne.jp

【スケジュール】

投票開始：2013年2月号発行日

投票締切：2013年3月31日

結果発表：WFP4月号(58号)

【対象】

2012年にWeb Fairy Paradise誌に掲載された作品(過去作の紹介作は除く)。なお詳しくは後日発行予定の対象作品一覧で確認下さい。またWFP作品展につきましては神無七郎氏のサイト(OFM)で全作品動く盤面で鑑賞いただけます。

【部門区分】

フェアリー詰将棋

短編部門：～15手

中編部門：16～49手

長編部門：50手～

推理将棋・ブルーフゲーム部門

(手数区分なし)

以上4部門となります。

【投票の仕方】

お気に入り投票として実施しますので何作投票していただいても構いませんが、お気に入り上位3作には1位～3位までの明記下さい。投票の際には集計間違いを防ぐため下記の項目を記載いただけると助かります。

- ・ 部門名
- ・ WFP何月号(または何号)
- ・ 作品展名(またはコーナー名)
- ・ (あれば)作品番号
- ・ 作者名&ルール名&手数
- ・ 投票作品へのコメント(部門別及び全体通してのコメントも出来ればお願いします)

*なお後日発行の対象作品一覧には通し番号を打ってますのでそちらの記載でも構いません。

【投票集計方法】

投票順位に応じて作品毎に下記ポイントを加算し、各部門での合計ポイント順に授賞します。

1位：5点、

2位：3点

3位：2点

上記以外：1点

各部門得票数上位3作までが授賞となります。作者に授賞コメントをお願いすることになりますのでご協力よろしくお願いします。

☆選考ではありませんので、全部の作品を見なくても構いません。お気に入りの作品をお好きなだけ書いて投票いただければ結構です。1票でも得票がある作品はすべて4月号に掲載いたします。今年もたくさんの投票をよろしくお願いたします。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2月20日(水)

第63回推理将棋出題

推理将棋 5作

3月15日(金)

第49回WFP作品展

フェアリー作品 12作

3月17日(日)

第14回詰四会フェアリー作品展

フェアリー作品 4作

4月15日(月)

第50回WFP作品展

フェアリー作品 8作

作品募集一覧

Fairy of the Forest#35

課題：初手と最終手が同じ協力詰（着手先と駒種）

応募締切：平成25年4月15日（月）

送り先：酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

詳細はP33をご覧ください

「第38回神無一族の氾濫」ゲスト参加募集

課題：攻方が損をするフェアリー作品

応募締切：平成25年4月15日（月）

送り先：神無七郎（janacek789@ybb.ne.jp）

詳細はP28をご覧ください

あとがき

いよいよ **FairyTopIX2012** のお気に入り投票が始まりますが、先日結果が発表されたのが詰将棋メモの2013年年賀詰のお気に入り投票です。第1位に輝いたのは橋本孝治さん（WFPでは神無七郎さんと言った方がわかりやすいかも）でした。これで2年連続第1位となりました。おめでとうございます。私も解図しましたが初形「巳」からの趣向が飛び出す作品で、どうやったらこんな作品が創れるのか凡人の私には皆目見当もつきません。それほど凄い。興味のある方はぜひ解図してみてください。

そんな中、私の強欲ばか詰煙に6票も入っているのにびっくり。普段あまりフェアリーを解いていないと思われる方々の名前もあり、解図していただいた（解答を見られた？かも）かと思うとなんだかうれしい気分になりました。今年は良い事がありそうな気もしてきます。投票いただいた方ありがとうございました。強欲ばか詰作品の発表が50題位なれば1冊に纏めたいなども考えております。先月のあとがきで書いた5作は結局、WFP作品展に投稿しまして今月の50回作品展にてお披露目されております。

そんなに難しくはないと私は思っており、楽しめる内容だと思います。私の作品以外の作品も含めてぜひ解図にチャレンジしていただければと思います。

これより花粉症の季節、毎年悩まれている方もたくさんいるとは思いますが、そんな中気分だけでもすっきりといければと考えてはいたして・・・

たくぼん

2013年 第56号

Web Fairy Paradise

非売品

平成二十五年二月号

平成二十五年二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先 takuji@dokidoki.ne.jp